

## 第2章-2

# 育ちや学びのつながりを意識した実践 ～えがおわくわく期のカリキュラム～

### 小1スタートカリキュラム期

#### ～ 目 次 ～

#### 2 小1スタートカリキュラム期

|  |    |
|--|----|
| (1) スタートカリキュラムとは                             | 44 |
| (2) スタートカリキュラムの効果                            | 45 |
| (3) スタートカリキュラムの編成・実施のポイント                    | 45 |
| (4) スタートカリキュラムの計画                            | 46 |
| (5) スタートカリキュラムの実践                            | 52 |
| (6) 小1スタートカリキュラム期の実践例                        | 53 |
| ◇ 実践例を読むにあたって                                | 54 |
| ◇ 実践例①：生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい<br>遊びを創り出そう!～」 | 58 |
| (単元計画・展開案)                                   | 62 |
| ◇ 実践例②：国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、<br>音読発表会をしよう」 | 66 |
| (単元計画・展開案)                                   | 70 |
| ◇ 実践例③：特別活動「みんなあそびをしよう」                      | 74 |
| (活動の流れ・展開案)                                  | 78 |
| ◇ 学習評価                                       | 81 |

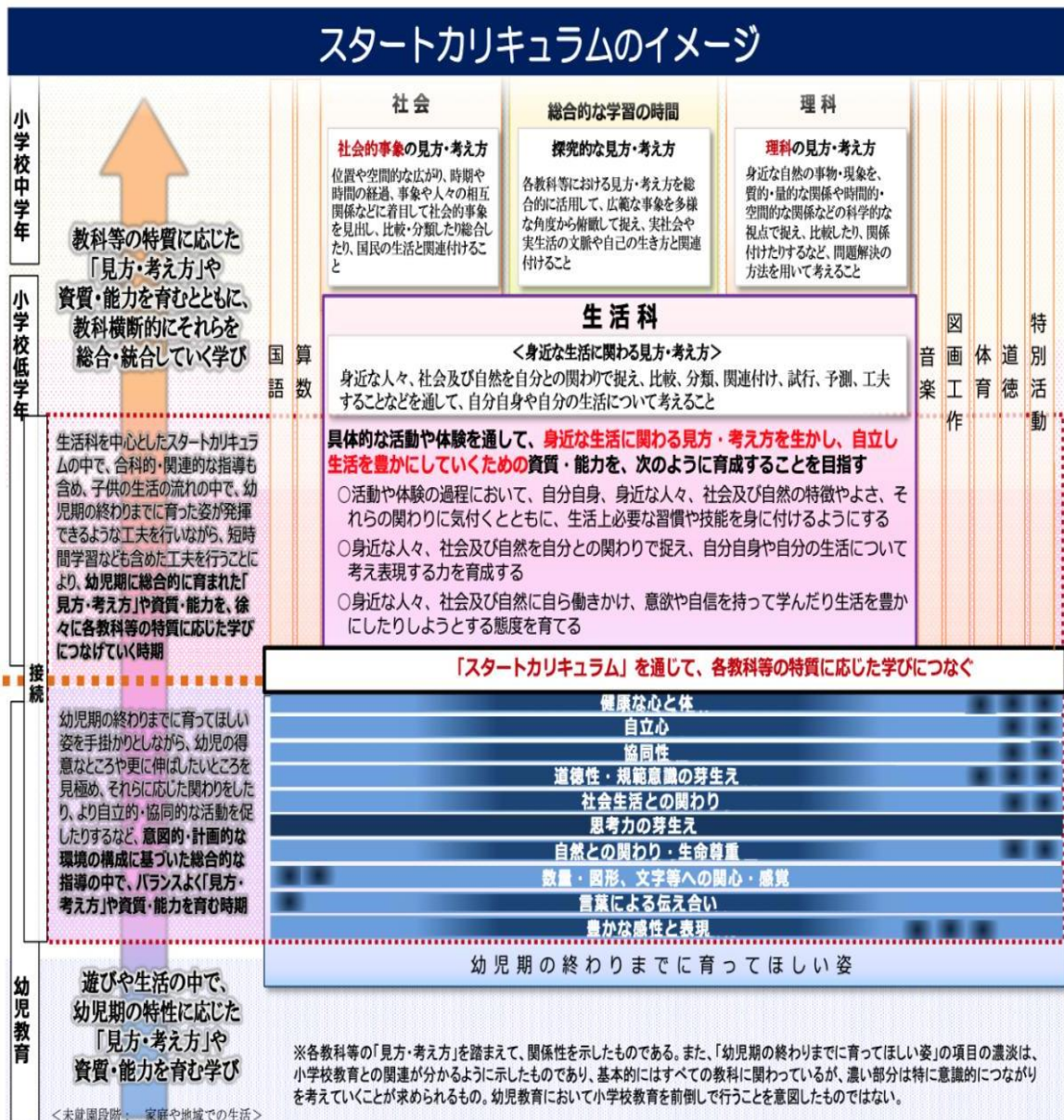
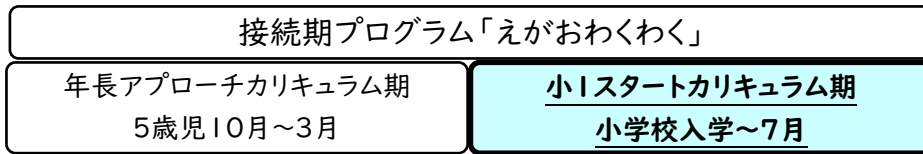
## 2 小1スタートカリキュラム期

### (1) スタートカリキュラムとは

#### ➤ 小学校において編成・実施する「小学校入学当初の教育課程」のことです

幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫を行うのがスタートカリキュラムです。

児童が入学してからも安心感をもち、幼児期の教育を通じて身に付けた力を発揮しながら意欲的に学ぼうとする姿を目指しています。



## (2) スタートカリキュラムの効果

- 安心して、学校生活をスタートすることができます
  - 幼児期の教育を通じて身に付けた力を発揮することができます
  - 児童が主体的に小学校の生活や学びを創り出す姿を実現することができます
- 遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を手掛かりに、小学校就学時の子どもの育ちを見通して5歳児後半の保育の充実が図られます。小学校での各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程とは、内容や進め方が大きく異なります。教育原理や指導方法の違いを理解・尊重した上で、スタートカリキュラムの編成・実施が必要です。

## (3) スタートカリキュラム編成・実施のポイント

### Plan (計画:2月~4月)

- ・就学予定児の育ちやこれまでの経験を把握する
- ・既存のカリキュラムを見直し、育てたい子ども像をもって編成する
- ・昨年度の成果や改善点を生かす

### Do (実施:4月~7月)

- ・スタートカリキュラムを実施する

### Check (評価:4月~7月)

- ・実践を振り返り、児童の育ちを確かめる

どこで、どのように評価するのか、計画をしておくことが大切です。スタートカリキュラムを実施しながら、カリキュラムの良かった点、改善点等を書き込んでいき、記録を残しておくことで、児童の育ちと学びの状況をより見取ることができます。

- 年間計画
- スタートカリキュラムの実践が分かる週案
- 活動の様子(写真や動画)
- 掲示物の記録(写真)

単元毎に気づき等を書き込んでいくと、貴重な記録となります

(評価メンバーの例)・管理職・教務主任・幼保小連携担当者・1年生担任  
・特別支援学級担任・養護教諭 など

### Action (改善:7月~8月)

- ・評価したスタートカリキュラムの成果について、2学期以降の指導につなげると共に、次年度のスタートカリキュラムの編成・実施に生かせるよう引継ぐことが大切です。

#### 2学期以降に生かす

- ◎2学期以降の生活科を中心とした合科的・関連的な指導についての計画を立てます。
- ◎校区毎の幼保小連携会議などで、接続期カリキュラムについて振り返る機会を設けて、小学校の生活や学習の様子について幼児期の教育の成果として捉えられるものを伝え、今後の交流・活動に生かします。

#### 次年度に生かす

- ◎次年度のスタートカリキュラムの編成・実施に生かせるように、成果や改善点を次年度に引き継ぎます。
- ◎年間計画や週案、活動の記録(写真や動画等)を残しておきます。

## (4) スタートカリキュラムの計画

### ① 編成のための組織づくり

1年生に関わりの深いメンバーで組織をつくり、スタートカリキュラムの意義や考え方を共有します。また、共有したことを全職員に伝えることも大切です。

(編成メンバーの例)

・管理職 ・教務主任 ・幼保小連携担当者 ・1年生担任 ・特別支援学級担任 ・養護教諭 など

### ② 新1年生の実態把握

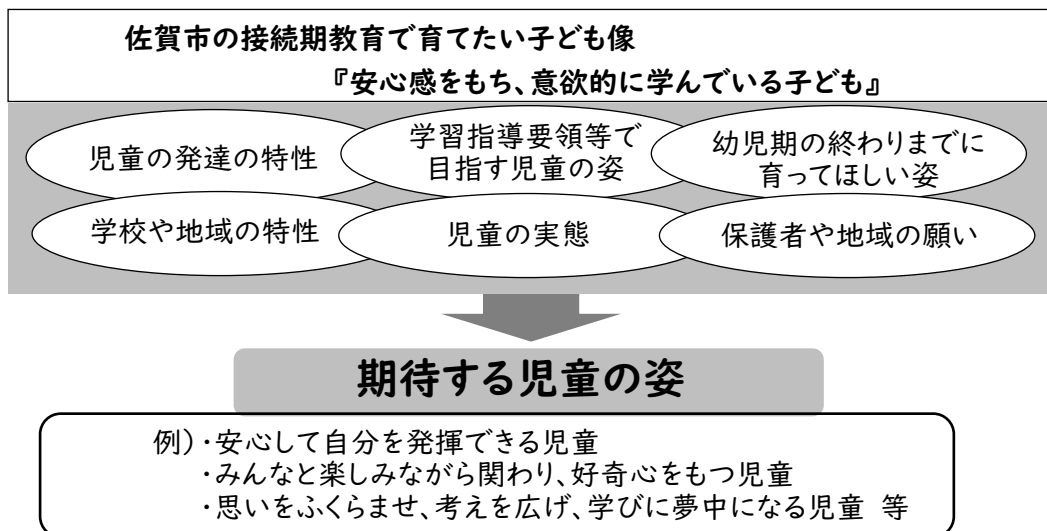
スタートカリキュラムを編成・実施するためには、1年生のこれまでの育ちや学び、経験を把握し、反映させます。

【幼児期の実態を理解する】

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を確認する。
- 幼稚園幼児指導要録、幼保連携型認定こども園園児指導要録、認定こども園こども要録、保育所児童保育要録から一人一人の実態を掴む。
  - 要録は児童理解の重要な手がかり
  - P86～88「育ちや学びをつなぐ要録の活用」
- 園と学校が行った交流・連携での就学児の姿や意見交換から実態を掴む。
  - 「校区ごとの幼保小連携会議」「わくわく学校訪問」「幼・保訪問」「幼保小合同研修会」「学校での交流活動」(生活科での交流、学校体験など)
  - P84～85「園と小学校の交流」

### ③ 期待する児童の姿の共有

スタートカリキュラムは、接続期の児童の気持ちにじっくりと寄り添い、児童のよさや可能性を丁寧に見取り、伸ばしていくことができるようにデザインすることが重要です。スタートカリキュラムを通して、一人一人が確かに成長することを目指し、期待する児童の姿を明らかにします。



文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 編著  
「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～」より引用

期待する児童の姿については、小1スタートカリキュラム期の教育課程全体を通して学校全体で育てていく目標として、全教職員で共通理解を図ります。1年生担任だけでなく、学校全体で協力体制を整えて児童を見守り育てることは、児童の安心感につながります。

#### ④ スタートカリキュラムの作成 (既存のカリキュラムの見直し)

##### 1) 「単元配列表」の見直し(例)

以下の表は、第1学年の1年間全体を見渡した単元配列表から、スタートカリキュラムの実施期間(4月~7月)を取り出した「単元配列表(例)」です。

児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが、自然に教科等の学習につながっていくように、単元の構成と配列を行うことが大切です。

また、合科的・関連的な指導の工夫を行う際には、各教科の内容の関連を想定し、児童の意欲の高まりや主体性の発揮につながるような単元配列をします。

|      | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   |
|------|--|--|--|--|
| 国語   | <ul style="list-style-type: none"> <li>さあはじめよう</li> <li>よろしくね</li> <li>ひととつながることば</li> <li>こえをとどけよう</li> <li>あいうえおのうた</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>あめですよ</li> <li>ぶんをつくらう</li> <li>みんなにはなそう</li> <li>さとうとしお</li> <li>とんこととん</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>あひるのあくび</li> <li>どうやってみをまもるのかな</li> <li>こんなことしたよ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>おおきなかぶ</li> <li>かぞえうた</li> </ul>  |
| 算数   | <ul style="list-style-type: none"> <li>くらべたことあるかな</li> <li>おいしいのはどちらかな</li> <li>なかまづくりとかず</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>なんばんめ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>あわせていくつ</li> <li>ふえるといくつ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>のこりはいくつ</li> <li>ちがいはいくつ</li> <li>どちらがながい</li> </ul>  |
| 生活   | <ul style="list-style-type: none"> <li>がっこう だいすき</li> <li>がっこうだいすき</li> <li>がっこうのことが</li> <li>しりたいな</li> <li>みんなと なかよく</li> <li>なりたいな</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ともだちと がっこう</li> <li>たんけんしよう</li> <li>がっこうにいるひと</li> <li>なかよくなるう</li> <li>みんなで つうがくろ</li> <li>をあるこう</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>きれいに さいてね</li> <li>たねをまこう</li> <li>せわをしよう</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>なつが やってきた</li> <li>こういて くさばなや</li> <li>おしをさがそう</li> <li>たのしかったことをつた</li> <li>えよう</li> <li>※キャリア教育とのつながり</li> </ul>                            |
| 音楽   | <ul style="list-style-type: none"> <li>うたっておどって</li> <li>なかよくなるう</li> <li>うたってなかよし</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>はくを</li> <li>かんじとろう</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>はくによって</li> <li>リズムをうとう</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>みのまわりのおとに</li> <li>みみをすまそう</li> </ul>   |
| 図工   | <ul style="list-style-type: none"> <li>すきなかたちや</li> <li>いるなあに</li> <li>かきたいもの なあに</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ちきよちきよかざり</li> <li>つちやすなど</li> <li>なかよし</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ひもひもねんど</li> <li>みてみて あのね</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>おってたてたら</li> <li>べったんころころ</li> </ul>  |
| 体育   | <ul style="list-style-type: none"> <li>おにあそび</li> <li>ゆうぐあそび</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>かけっこ たまれ</li> <li>ダンス リレー</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>てつぼうあそび</li> <li>マットあそび</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>みずあそび</li> <li>ボールあそび</li> </ul>  |
| 道徳   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 ようこそ1ねんせい</li> <li>2 じゅぎょうがはじまり</li> <li>ますよ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>3 あいさつ</li> <li>4 がっこうにはね</li> <li>5 きをつけて</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>6 はしのうえのおおかみ</li> <li>7 ハムスターのあかちゃん</li> <li>8 みんないっしょ</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>9 うかんだうかんだ</li> <li>10 ぼくのあさがお</li> <li>11 にじがでた</li> </ul>   |
| 特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>あんぜんな どうげこう</li> <li>たのしい きゅうしよく</li> <li>【第1回学級会】</li> <li>がっきゅうむくひょうを</li> <li>きめよう</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>【第2回学級会】</li> <li>みんなあそびをしよう</li> <li>そうじを がんばろう</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>【実践例【特別活動】】</li> <li>はを たいせつにしよう</li> <li>つゆどきの すごしかた</li> <li>たべものの はたらきについ</li> <li>てしろう</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>【実践例【特別活動】】</li> <li>できるようになったよ</li> <li>(1がっきを ふりかえ</li> <li>ろう)</li> <li>※キャリア教育との</li> <li>つながり</li> <li>なつやすみの すごしか</li> <li>た</li> </ul> |

実践例【国語科】

合科的な指導 P48

実践例【生活科】

すなあそび

関連的な指導 P48

実践例【特別活動】

## 2) 合科的・関連的な指導の計画

児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるように、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、1コマを45分ではなく短い時間に区切って設定するなど工夫を行います。

### 【合科的な指導】 (□学習指導要領総則解説 P72)

教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法。複数の教科の目標や内容を組み合わせ、学習活動を展開するもの

例) 4月 第1週目(1日目) がっこう だいすき(3時間計画) →P49

児童の思いや願いを見取りながら、各教科の内容(◆)を組み合わせ、児童が安心感をもって学習(◎)に取り組むことができるように計画を立てます。

| 合科的な指導       | 教科 | 時間  | 教材名             | 内容   |
|--------------|----|-----|-----------------|--|
| がっこう<br>だいすき | 音楽 | 0.5 | 「うたって<br>なかよし」  | ◎隣の席の友達と一緒に、教科書の絵の中に隠れている歌を見つける。<br>◎見つけた歌を、みんなと一緒に声を合わせて歌ったり、体を動かしながら音楽を聴いたり、遊んだりする。<br>◆歌詞の表す様子、旋律、リズムや曲想との関わりに気づき、声を合わせて歌う技能を身に付ける。                           |
|              | 国語 | 0.5 | 「よろしくね」         | ◎友達の顔を見て、自分の名前を言う。<br>◎グループで輪になって座り、友達や先生と自己紹介をし合う。<br>・「わたし(の名前は)は〇〇〇〇です。」「よろしくお願ひします。」<br>・「よろしくお願ひします。」「仲良くしてね。」「友達になろうね。」<br>◆丁寧な言葉遣いを意識し、友達と名前を紹介し合うことができる。 |
|              | 体育 | 1   | 「おにあそび」         | ◎鬼遊び(手つなぎ鬼、子増やし鬼など)の行い方を知る。<br>◎鬼にタッチされないように、空いている場所を見つけて、速く走ったり、急に身をかわしたりする。<br>◆鬼遊びの行い方を知ると共に、一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則で鬼遊びをすることができるようになる。               |
|              | 生活 | 1   | 「がっこうのことがしりたいな」 | ◎みんなで教室や学校の中を見て回り、発見したことを出し合う。<br>◎教室や学校の施設の役割、使い方について教師や友達と話す。<br>◆学校は様々な人や施設と関わっていることが分かる。   |

朝の時間(→P51)と連続した計画も考えられます

### 【関連的な指導】 (□学習指導要領総則解説 P72 参考)

教科等別に指導するに当たって、各教科や特別の教科道徳、特別活動の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの

例) 生活科「すなあそび」  
→実践例①P58～61

・みんなで仲良く道具を譲り合って使う。  
・友達の作ったものを壊さないように、気を付ける。

・土や砂をいろいろな形に変えて、力を合わせて「砂場の町」を創り出す。

道徳科「9 はしのうえの おおかみ」(親切、思いやり)

【生活科で学んだこと(協働、連携、認め合う)を生かす】

・導入や週末で、「すなあそび」での児童の姿を想起させ、児童が主体的に考えるヒントとする。

T「友達の作ったトンネルが壊れないように、そっと通っていた人がいたよ。」

T「砂遊びで町を創った時、仲良く道具を使っていたね。」

【道徳科で学んだこと(親切、思いやり)を生かす】

T「道徳科で親切や思いやりについて学んだね。これから、みんなで砂場遊びをする時に、学んだことを生かせるかな。」

特別活動「みんなあそびをしよう」【特別活動で蓄積した「学級のたから」を他教科等に生かす】

・みんなで見いだした「学級のたから」をもとに、「すなあそび」をスタートする。

図工科「おって たてたら」(紙を折って立てた形から思い付いたものを作る)

【生活科で学んだこと(協働、友達のよさを取り入れる等)を生かす】

・学習計画を立てる際に、生活科「すなあそび」での経験を想起させ、学習課題の設定につなげる。

T「砂遊びでは、友達の工夫に気付いたり、作ったものをつなげたりしたね。」

T「砂遊びではみんな力を合わせて『砂場の町』を創ることができたね。」

ポイント

各教科等のどちらを先に学習し、学んだことをどう関連付けるのか、学級の実態に応じて計画を立てることが大切です。

### 3) 「週時間割」(4月:1週目)の見直し(例)

|     | 1日目  | 2日目   | 3日目  | 4日目   | 5日目   |
|-----|--|---|--|---|---|
| 行事  | 入学式  | 一斉下校  | 一斉下校   | 給食開始  | 給食2日目   |
| テーマ | 「がっこうだいすき」～安心して学校生活を送ることができる～                                    |   |  |   |   |
| 朝   | 登校してからの過ごし方が分かり、思い思いの活動を楽しむ <span style="float: right;">⑥</span> |   |  |   |   |
| 1   | (登校)<br>・靴箱、ロッカー、机の位置を確認する。                                      | ■がっこうだいすき<br>音楽(0.5)<br>国語(0.5)<br>体育(1)<br>生活(1)<br><b>③ 合科的な指導</b>          | 行事(0.5)<br>・身体測定<br>※着替えをする<br>■がっこうだいすき   | ■がっこうだいすき<br>国語(1)<br>書写(1)<br>国語(1)<br><b>合科的な指導</b>   | ■がっこうだいすき<br>音楽(1)<br>生活(0.5)<br>算数(0.5)<br><b>合科的な指導</b>                                   |
| 2   | 入学式  | ○うたってなかよし<br>○よろしくね<br>(名前の紹介)<br>○おにあそび<br>○がっこうのことがしりたいな<br><b>① 安心感をもつ</b> | 音楽(0.5)<br>国語(0.5)<br>生活(0.5)<br><b>合科的な指導</b><br>○うたって なかよし<br>○さあ はじめよう<br>○がっこうのことがしりたいな<br><b>① 安心感をもつ</b> | ○さあはじめよう<br>○「すきなかたちやいろいろなに」の作品に名前を書いて、「自己紹介カード」を作る。<br>○よろしくね<br>・作成した「自己紹介カード」を使って自己紹介をする。<br><b>④ 関連的な指導</b> | ○セブンステップス<br>○がっこうのことがしりたいな<br>・学校の中を見に行こう<br>○くらべたことあるかな<br><b>② ※幼児期に育った数や量への関心・感覚の想起</b> |
| 3   | 特別活動<br><学級開き>   | <b>② これまでの学びや経験を発揮する</b>  | 図工(1)<br>○すきなかたちやいろいろなに<br>・好きなものを描いたり、話をしたりする。<br><b>④ 関連的な指導</b>   |   | 道徳(1)<br>○ようこそ!ねんせい<br>・楽しい学校生活<br>・学校でどんなことをしたいかな  |
| 4   | ・保護者への連絡   | 【一斉下校】<br>・下校グループ確認<br>・安全な登下校<br>・グループ別下校                                    | 【一斉下校】<br>・下校グループ確認<br>・前日の下校を振り返る。<br>・グループ別下校  | 特別活動(1)<br><学級づくり><br>○たのしいきゅうしよく<br>・給食の準備の仕方を考える。<br><b>② ※これまでの経験を共有する</b><br>・協力して配膳する<br><給食開始>            | 体育(1)<br>○ゆうぐあそび<br>・固定施設の安全な遊び方を知り、ジャングリズムや雲梯、登り棒、平均台などで様々な運動遊びをする。                        |
| 5   |  |   |  | 生活(0.5)<br>○がっこうのことがしりたいな<br>・安全な登下校<br><b>①</b>  | 生活(0.5)<br>○がっこうのことがしりたいな<br><b>① ※園での1日を思い出しながら、学校での1日を振り返る</b><br>・次週の期待をもつ<br>・安全な登下校    |

#### 見直し①安心感をもつ

安心感をもてるように、児童の思いや願いを教師が想像し、それに応える朝の会や活動を取り入れます。

先生や友達のことが知りたい

自分のことを知ってほしい

どんなことをするのか

#### 見直し②これまでの学びや経験を発揮する

適応指導ではなく、すでに身に付けていることを発揮できる環境を整えます。

T「園では、どんなことをしましたか。」

T「園では、〇〇をしたことがありますか。」

#### 見直し③合科的な指導 →P48

入学当初の児童の思いや願いに沿いながら、複数の教科の目標や内容を組み合わせた学習活動を組み立てます。

#### 見直し④関連的な指導 →P48

学んだことが、実生活や次の学習に生かされる実感に伴うように工夫します。

#### 4) 「週時間割」(4月:2週目)の見直し(例)

|     | 6日目   | 7日目  | 8日目  | 9日目   | 10日目   |
|-----|---|--|--|---|--|
| 行事  | 2年生となかよし  |  | ようこそ1ねんせい  | 眼科検診  | 授業参観   |
| テーマ | 「ともだちだいすき」～友達と楽しく過ごしながら、学校生活が少しずつ分かる～   |  |  |   |  |
| 朝   | 絵本の読み聞かせや歌遊び・手遊びなどの活動を楽しみ、友達との一体感を高める <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">⑥</span>   |  |  |   |  |
| 1   | <p>■がっこうのことがしりたいな</p> <p>※週の初めの支度</p> <p>音楽(0.5)</p> <p>国語(1)</p> <p>書写(1)</p> <p>生活(1.5)</p> <p>○こうかをうたってみよう</p> <p>○ひととつながることば</p> <p>○じこしょうかいカードをつくろう</p>    | <p>■がっこうのことがしりたいな <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">③</span></p> <p>国語(1)</p> <p>図工(1)</p> <p>算数(0.5)</p> <p>生活(0.5)</p> <p>体育(1)</p> <p>○ひととつながることば</p> <p>・学校を歩いてみよう</p> <p>・校庭を歩いてみよう</p> <p>○誰かと会ったらどうするの?</p> <p>○すきなかたちやいろいろなあに</p> <p>・見つけた好きなもの</p> <p>・好きなものを紹介しよう</p> <p>○おおいのはどちらかな</p> <p>※幼児期に育った数や量への関心・感覚の想起 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">②</span></p> <p>○がっこうをたんけんしよう</p> <p>○ゆうぐであそぼう</p> | <p>国語(1)</p> <p>○こえをとどけよう</p> <p>行事(1)</p> <p>○「ようこそ1ねんせい」のかい</p> <p>・他学年との交流</p> <p>※いろいろな並び方</p> <p>算数(1)</p> <p>○なかまづくりとかず</p> <p>国語(1)</p> <p>○あいうえおのうた</p> <p>○おおいのはどちらかな <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">④</span></p> | <p>■がっこうのことがしりたいな</p> <p>音楽(0.5)</p> <p>算数(1)</p> <p>図工(1)</p> <p>国語(1)</p> <p>○ひらいたひらいた</p> <p>○なかまづくりとかず</p> <p>○かきたいものなあに</p> <p>○えんぴつをつかうときにたしかめよう</p> <p>・作品の名前カードを書こう</p> <p>行事(0.5)</p> <p>・視力検査</p> | <p>■みんなとなかよくなりたいな</p> <p>生活(1)</p> <p>体育(1)</p> <p>書写(1)</p> <p>国語(1)</p> <p>○いっしょにあそぼう</p> <p>・校庭を探検しよう</p> <p>・何を見つけたかな</p> <p>※職員室の入り方</p> <p>○ゆうぐであそび、おにあそび</p> <p>○たのしくかこう</p> <p>・鉛筆で書いてみよう</p> <p>○あいうえおのうた</p> |
| 2   | <p>合科的な指導</p>   | <p>合科的な指導</p>  | <p>合科的な指導</p>  | <p>合科的な指導</p>   | <p>合科的な指導</p>  |
| 3   | <p>○がっこうのことがしりたいな</p> <p>「2年生となかよしになろう会」</p> <p>・2年生とペアで</p> <p>・自己紹介カードを渡して、自分のことを知ってもらおう</p> <p>・2年生と学校を歩いてみよう</p> <p>○もういちどいってみたいな</p> <p>・次の学校探検の計画を立てる</p> | <p>○かきたいものなあに</p> <p>○えんぴつをつかうときにたしかめよう</p> <p>・作品の名前カードを書こう</p>   | <p>○かきたいものなあに</p> <p>○えんぴつをつかうときにたしかめよう</p> <p>・作品の名前カードを書こう</p>   | <p>○かきたいものなあに</p> <p>○えんぴつをつかうときにたしかめよう</p> <p>・作品の名前カードを書こう</p>  | <p>○かきたいものなあに</p> <p>○えんぴつをつかうときにたしかめよう</p> <p>・作品の名前カードを書こう</p>   |
| 4   |   | <p>特別活動(1)</p> <p>○あんぜんなとうげこう</p>  |  | <p>道徳(1)</p> <p>○「じゅぎょうがはじまりますよ」</p>  | <p>授業参観</p> <p>音楽(1)</p> <p>○うたっておどってなかよくなる</p> <p>※次週の期待をもつ</p>   |
| 5   |   |  |  | <p>①</p>  |  |

#### 見直し⑤「柔軟な学習時間」の設定

授業時間を15分と30分に区切ることも考えられます。柔軟なスタイルを取り入れることで、活動にリズムができて集中力や深まりも出てきます。15分の時間設定は、朝の会や帰りの会などでも設定しやすく、授業に広がりが出てきます。

##### ★区切り方

45分を  
3分割

|     |
|-----|
| 15分 |
| 15分 |
| 15分 |

##### ★展開例

音楽:はくをかんじとろう

国語:あいうえおのうた

つながり

##### 〈留意点〉

- ・単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して設定する。
- ・授業のねらいを明確にして実施する。

#### 見直し⑥朝の時間の活用 →P51

入学後1～2週間程度は、朝の時間の過ごし方を工夫し、児童が安心感や自信、見通しをもって活動できるようにします。家に帰ってから「明日も学校に行きたいな」と思える時間となるように丁寧に計画しましょう。朝の時間が短い学校は、1時間目をモジュールとし、朝の時間から連続した時間として活用する計画を立てることも考えられます。

## 5) 朝の時間の活用(例①入学後1~2週間程度)

入学後1~2週間程度、年長期の生活リズムや一日の過ごし方に配慮し、朝の時間を工夫することにより、安心感や自信、見通しをもって、楽しい気持ちで活動することにつながります。

朝の時間から1時間目を連続した時間として計画することも考えられます。

### 安心して朝の時間を過ごせるように(15分程度)

- ① 登校後、朝の支度を済ませ、思い思いの活動をする。
- ② みんなが登校したら、落ち着いた雰囲気の中で**絵本の読み聞かせ**
- ③ 友達と一緒に体を動かしたり声を出したりする**歌遊び・手遊び**

- ・ 小学校に入学したばかりの児童は、期待と同時に不安を抱えています。
- ・ 年長期に親しんだ「読み聞かせ」や「歌遊びや手遊び」等を取り入れることで、児童の安心や楽しさにつながります。
- ・ 安心感とともに、友達との一体感も高まります。
- ・ 絵本を通して季節を感じることもでき、日常生活や各教科等の学習にも生かされます。

### 絵本の読み聞かせ

この絵本は初めて見たよ。どんなお話かな。

次の読み聞かせが楽しみだな!



### 手遊び・歌遊び

「ひらいたひらいた」は園で遊んだことがあるよ。

明日も、みんなで作りたいな。



学校の1日の過ごし方が分かり、安心して朝の時間を過ごせるようになったら……

## 6) 朝の時間の活用(例②入学後、約3週間目以降)

- ・ 朝の会(健康観察・朝の歌・今日の予定・先生の話 等)を取り入れて、一日の見通しをもつことができるようにし、児童の出番を増やして自信を付けさせる機会を設けます。
- ・ 係活動の時間として、より過ごしやすく、楽しくなるために自分達で工夫して活動する時間を設けると、クラスの一員としての自覚が高まります。
- ・ 各学校で計画されている活動(読書タイム、スキルタイム、各朝会、児童会活動 等)に少しずつ移行させていきます。

※朝の時間が設定されていない学校については、1時間目をモジュールとし、朝の時間から連続した時間として活用することも考えられます。朝の時間に1日の生活の見通しをもつことができると、安心感や自信をもって授業に臨むことにつながりますので、丁寧に計画しましょう。

## (5) スタートカリキュラムの実践

スタートカリキュラムを実践する際は、次の4つのポイントを取り入れます。

### ポイント1 生活や学習を「見通せる」工夫をしましょう

Q. 幼稚園や保育園の一日から、小学校の一日へ。児童の気持ちをどう切り替えたらいいの？

#### ◇ 一日の生活を見通すためには？

- ⇒ 一日の生活の流れを、絵や写真で視覚化する。
- ⇒ できている児童をほめることで、どう行動すればよいかのモデルとする。

#### ◇ 児童の集中力を保つためには？

- ⇒ 時間の区切りを15分程度の短い時間とする。
- ⇒ 「聞く」「話す」「動く」など行動のメリハリをつけた活動とする。

### ポイント2 人とよりよい関係をつくるための仕掛けを工夫しましょう

Q. 複数園から入学します。小学校でもお互いを認め合う関係をつくるためには？

#### ◇ 友達と、目標を共有して学ぶためには？

- ⇒ クラスの目標を決め、できたことを帰りの会で振り返る。
- ⇒ 取えて難しいめあてではなく、みんなが達成できそうなめあてにし、できたことを喜び合う。

#### ◇ 他学年児童との交流を充実させるためには？

- ⇒ 6年生担任と話し合い、昼休みに1年生の教室や校庭で一緒に遊んだり、給食を一緒に食べたりするなど、交流の機会を設ける。
- ⇒ 1・2年生の生活科で「なかよしになろう会」を計画し、1年生も主体的に活動する場を設定する。
- ⇒ 全校で1年生の入学を歓迎する「ようこそ1年生の会」を開き、全校児童での交流活動を行う。

#### ◇ 地域との交流をスタートさせるには？

- ⇒ 生活科の「がっこうたんけん」や、特別活動「あんぜんなとうげこう」で地域の見守り隊の活動を知り、登下校時に進んであいさつができるようにする。



### ポイント3 きまりや安全について理解させるための工夫をしましょう

Q. 児童の主体性を大切にしながらも、小学校のルールを教えるためにはどうしたらいい？

#### ◇ 自分や友達の命や心を守るためには？

- ⇒ 「命や心は、一番大事にしなければならいもの」ということ一貫して指導する。
- ⇒ 安全な行動（交通安全や遊具の遊び方など）について生活科や各教科で合科的・関連的に学んだこと、特別の教科道徳や特別活動で関連的に学んだことを振り返ったり、確認したりする。

#### ◇ 道徳性を高めるためには？

- ⇒ 身近にいる友達や様々な人との触れ合いの中で、相手のことを考えて接している姿を褒める。
- ⇒ 帰りの会などで、一日の生活中でよかったことを共有すると共に、困ったことがあればみんなて解決する場を設けるなど、特別活動と関連させて指導する。

#### ◇ 規範意識を高めるためには？

- ⇒ 生活の中できまりを守ったり、みんなが使うものを大切にしようとしたりする姿を認め、価値付ける。



## (6) 小1スタートカリキュラム期の実践例

今回の小学校学習指導要領の改訂では、低学年の各教科等（国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動）においてスタートカリキュラムを行うことが明記されています。小1スタートカリキュラム期の実践例として、各教科等の中からの次の3つを紹介します。

### ① 生活科（□小学校学習指導要領解説生活編 P62～64参照）

スタートカリキュラムでは、生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫します。

#### 実践例①生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!～」



・園でも砂遊びをします。小学校との違いは何ですか？

⇒□P61【Q&A】

・園での砂遊びの経験は、小学校で生かされますか？

⇒□P58（第1次 砂遊び①）

### ② 国語科（□小学校学習指導要領解説国語編 P158～159参照）

人は、言葉で思考し、言葉で伝えます。言語能力は、全ての教科等の学習の基盤です。

#### 実践例②国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、音読発表会をしよう」



・園でも「劇ごっこ」をしますが、小学校との違いは何ですか？

⇒□P69【Q&A】

・どうやって学習計画を児童と共有すればよいですか？

⇒□P66（第1次）

### ③ 特別活動（□小学校学習指導要領解説特別活動編 P145～148参照）

新しい学級・学校生活に慣れるための活動を、各教科等と関連させながら仕組みます。

#### 実践例③特別活動「みんなあそびをしよう」



・1年生の1学期でも、学級会はできるのですか？

⇒□P77【Q&A】

・学級会は、新しい学級・学校生活にどのように生かされるのですか？

⇒□P76（活動を通して学んだことを学級・学校生活へ広げる）

## 小1スタートカリキュラム期の実践で大切にしたいこと

### ➤ 主体的な学びとなるよう学習計画を立てます

「やってみよう!」「わくわくする!」と、意欲が高まる授業となるような課題設定が大切です。魅力的な学び・必然性のある学びとなるよう、児童と共に課題を設定し、単元計画を立てます。

### ➤ 幼児期の体験とのつながりを大切にします

遊びなどの「体験」と、「知ること」が結びつくと、「学ぶこと、知ことは楽しい!」と感じることに繋がります。児童理解を深めるために、児童がどのような思いや願いを持っているのか、実態把握をすることが大切です。

### ➤ 安心感をもてる言葉かけや授業の導入を工夫します

教師が「園では、どうしていたの?」と問いかけるなど、園での経験を生かす意識をもって児童に接することで、児童は安心感をもつことができます。児童が「学校は、園でやってきたことを使って、生活・勉強をするところなんだな。」という気持ちを持ち、安心して学校生活を送ることができるように、児童の思いや願いを見取ることが大切です。

◇ 実践例を読むにあたって(小1スタートカリキュラム期)

〇月 〇〇科「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」(全〇時間)



〇月 〇〇科「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」(全〇時間)

第3次

5 学びの振り返り

【評価】特に4・5月は細やかな評価をするよりも、一人一人のよさや可能性を見取り、児童に積極的に伝えることが大切です。(評価の例)

・授業の様子や発言の見取り

特に4・5月は、ペアで意味を伝え合う学習や、作業をしている様子、また黙々と自力解決している様子を、単元を通して見取ります。単元を通して見取るためにはチェックリストを活用すると有効です。

・ワークシート等での振り返り

言葉での記述にこだわらず、線を引いたり、丸を付けたりにしているものから試行錯誤の様子を見取ります。

・身に付いた力を確かめる自作テスト

「本単元で育成を目指す資質・能力」が身に付いているか、ポイントを絞ったテストをすることもスタートカリキュラム後半では有効です。

「うまくできなかったので、色々な方法で練習したら、〇〇ができるようになりました。」

自分の成長への気づき

「△△の学習で、〇〇をすると、周りの人たちの役に立つことが分かって良かったです。」

学ぶことの価値の実感

身に付いた力を振り返る時間の確保  
・振り返りの視点(学んだ力や付いた力、学び方、自分の成長等)の提示

振り返る

より深く理解する

意味や価値を創造する

子供と地域の人との対話

主体的に課題解決し、学習を振り返る中で自分の役割を認識できているものについては、「キャリア・パスポート」に収められる価値のあるものになる

※「キャリア・パスポート」・・・小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、児童生徒自らが記録し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのこと。

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q. 各実践例や小学校教育に関する、園の先生の疑問です。  
A. 小学校の先生が、なぜそのような学びを仕組んだのか、小学校教育のポイントや大切にしていることについて理由を明確にして答えます。

【省察】

・主体的に学んでいる中にも、育成したい資質・能力が身に付いているか評価する。  
・児童の多様性、一人一人の思いや願いを大切にできたか振り返る。  
・「児童理解」をもとに立てた「計画」と「実践」であっても、実際の「ずれ」がないか常に児童の学びの様子を見取りながら、「計画」を弾力的に進めることができたか振り返る。

(知識・技能)

既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか

→その素地として期待される、

小1スタートカリキュラム期での児童の姿(実践例から)

生活:砂の感触を楽しみ、遊びを工夫する面白さに気付いている  
国語:「おおきなかぶ」の「誰がどのようにしたか」について理解している

特活:学級生活を楽しくするために、友達と協働して取り組むことの大切さを理解している

(思考力・判断力・表現力等)

課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか

→その素地として期待される、

小1スタートカリキュラム期での児童の姿(実践例から)

生活:試行錯誤を繰り返し、遊びや遊びに使うものを工夫している

国語:場面の様子が分かるように、様々な読み方を試している

特活:よりよい学級生活づくりについて考え、判断し、話し合っている

(主体的に学習に取り組む態度)

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか

→その素地として期待される、

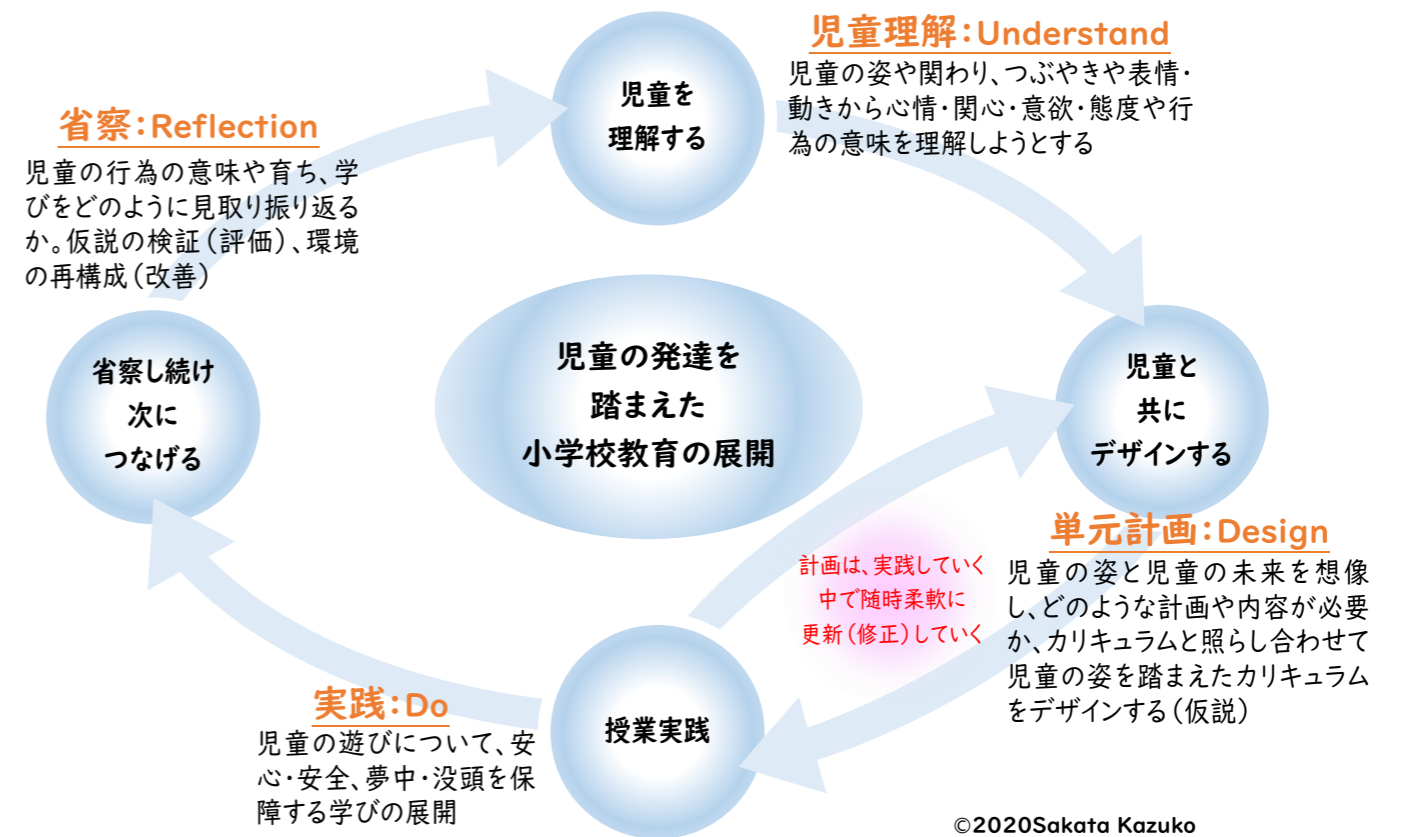
小1スタートカリキュラム期での児童の姿(実践例から)

生活:競い合ったり力を合わせたりして、友達と楽しみながら遊びを創り出している

国語:役割分担をしながら、最後まで楽しく学び続けている

特活:自分の考えをもち、積極的に意見を述べようとしている

小1スタートカリキュラム期で大切にしたいこと



【解説】

スタートカリキュラムは、児童の発達の特性や幼児期の発達を踏まえてデザインすることが重要<sup>P93-11)</sup>と明記されています。まずは、児童の発達の特性、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、学習指導要領等で目指す児童の姿、学校や地域の特性、保護者や地域の願い、そして児童の実態を踏まえて期待する児童の姿を共有しますが、ポイントは目の前の児童の姿から心情や関心などを見取り理解することです。

今までの生活から小学校での生活へ変化することを環境移行と呼びますが、環境移行初期は新たな環境の全体像がつかめず無自覚的な不安が生じます。期待と不安などの相反する感覚の二重性については、幼児教育の遊びの中で多くの葛藤と折り合いをつける経験を重ねていますが、環境移行自体は異なる文化へ所属する大きな段差になりますので、その段差を滑らかにして安心して学ぶ環境を整える必要があります。どこの園の子も、家庭から直接小学校へ入学する子も、全ての児童のありのままの姿を受け止め、安心して居場所感を児童自身がもてるような児童理解が学級経営の鍵になります。

教師が個人内評価を中心に子供一人一人のよさや可能性を評価し省察し続けると、自己肯定感を高めながら伸びやかに学ぶ児童の姿が立ち現れます。『学ぶことは楽しい』『分かる面白い』『難しいけど挑戦してみよう』など、学習への肯定的な感覚がスタートカリキュラム期以降の学びに向かう力へ繋がってきます。教科横断的に、合科関連的にマネジメントしていきましょう。

【坂田先生より】



幼児期とのつながりを大切にするために

幼児期の「遊び」とのつながりを大切に

遊びなどの「体験」と、「知ること」が結びつくと、「学ぶこと、知んことは楽しい」と感じることに繋がります。

安心感をもてるように

教師:「幼稚園や保育園では、どんなことをしたことがありますか?」  
児童:「学校は、幼稚園でやってきたことを使って、勉強するところなんだな。」

単元を通した学びを、次に生かすために

【評価について】

・単元を通して、どこで、どのように評価するのか、計画をしておくことが大切です。  
・特に4~5月は、ノートやワークシートへの記入については丁寧に指導し、児童が一つ一つ獲得していくプロセスを押し進めておく必要があります。  
・「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。

◇ 実践例① (小1スタートカリキュラム期)

6月上旬 生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!～」

(全4時間)

育成を目指す  
資質・能力

知識及び技能

土や砂の感触を楽しみながら、砂遊びの面白さや自然の不思議さに気付く  
【内容(6)その面白さや自然の不思議さに気付く】

表現力等

土や砂の特徴を見つけ、思考錯誤を繰り返しながら、遊びを工夫する  
【内容(6)遊びや遊びに使うものを工夫してつくる】

人間性等

遊びに向かう力、友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりしながら、みんなと楽しんで砂遊びを創り出そうとする

第1次 砂場で遊んでみよう(1時間)

1 幼児期の経験を共有したり、実際に砂場で遊んでみたりして、思いや願いを確かにする(砂遊び①)

【学びがいのある「学習課題」の設定】  
T:学校探検ではどんなものを見つけましたか。  
「小学校は、広くて色々なものがあつたね。」  
「運動場で砂場を見つけたよ。遊んでみたいな。」  
T:今までにどんな砂遊びをしましたかありますか?  
「山を作ってトンネルを掘ったことがあるよ。」  
「穴をたくさん掘って、その中に水を入れて、足を入れたよ。気持ちよかったよ。」  
「よし、みんなで作ってみよう。」 **これまでの経験の共有・意欲の高まり**

ふかふかの砂場を見つけたよ。みんなに知らせよう。  
前単元とのつながり

【学習課題】 砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!  
「大きな山をいくつも作ってみたいな。」 「カップを持ってきてケーキ屋さんやお団子屋さんを開きたいな。」 「川を作って水を流してみたいな。」 **自分の思いや願いの明確化**

小学校には多数の園から入学するので、新しい友達とも関わることで新しい発見が生まれる。幼児期の経験を共有し、安心感をもって砂遊びをしながら、砂場遊びの新たな楽しみ方を見出してほしいという願いをもち、児童と共に本学習課題を設定した。

【これまでの学びを大切に「児童理解」を図る】  
・学校探検では校内を見て回り、様々な施設や、様々な人がいることに気付いた。  
・その中で、様々な施設で遊んだり、人と関わったりしたいという思いをもった。  
・園での楽しかった経験(砂遊び・水遊び)を想起し、新しい友達とも遊びたいという願いや思いをもった。

【学習課題を解決する過程が見える「学習計画」の設定】  
・学びの見通しと経験をもとに自分の学習課題を見つける。 ・学びを振り返る場面を設定する。

砂の中は冷たくて気持ちいいな。場所による温度の違いの気付き  
ぎゅっと固めると団子ができたよ。湿った砂の特徴の気付き  
上から落とすとさらさらだね。乾燥した砂の特徴の気付き  
ふかふかだから手で集められるよ。砂の手触りの気付き

- ・前単元「学校探検」での気付きや振り返りを想起させる発問や掲示物の提示
- ・幼児期の経験の想起
- ・環境整備(遊びたい砂場になるよう掘り起こす)
- ・前単元「学校探検」での気付きや振り返りの掲示物の提示
- ・幼児期の体験との関連付け

第2次 砂場で楽しい遊びを創り出そう(2時間)

2 それぞれの思いや願いを遊び、遊びを工夫しようとする(砂遊び②)

砂遊び②前半

川の砂を山に使うと崩れにくいよ。砂と水の関連性の気付き  
こっちの川に水を入れてね。はい、いいですよ。役割分担

トンネルの中で手がつなごうよ。協働の喜び  
一番高い山はどれかな。数や長さへの関心

もっと高い山や長い川をたくさん作りたいです。振り返りによる新しい課題設定(ホワイトボード赤線・赤文字部分)

やま とんねるかわ なぎさ むとたかいやま おんこ けさきじつけん むとながいかわ うみ おんこ **作戦タイム**

個々の遊びが、同じ遊びをするグループでの活動に発展し、役割分担や協働作業が生まれ始めた。中間の振り返り(作戦タイム)では砂場全体を眺め、これからどうしていきたいのかを出し合う時間とした。そこでは新たな思いや願いが生まれ、教師が板書することで全員が共有した。

砂遊び②後半

バケツやザルを使うと、大きな山ができるよ。道具の工夫  
水って重たいね。二人で運ぼうよ。水の特徴・友達との協力

川と川をつないで長くして、海も作ろう。振り返ったことの実行  
ケーキとお団子屋さんができるよ。道具の工夫・活動への没頭

完成

新たに生まれた思いや願いを実現するために、これまでの経験等を関連付けながら遊びを工夫し、最後には「砂場の町」が完成した。「遊びを創り出している姿」だと捉える。

- ・気付きを自覚させたり、関連付けたりするための教師の言葉掛け
- ・活動の振り返りを共有するために、児童の活動や言葉を教師が板書
- ・児童の学習課題に対して解決するための支援
- ・児童の気付きに対する共感や称賛
- ・グループ内やグループ間での情報の共有化を目的とした対話活動の設定



第3次 遊んだことを振り返ろう(1時間)

3 遊びを振り返り、楽しかったこと、友達と一緒にできたこと、もっとやってみたいことなどを発表し合う



【ワークシート】  
ひらがなでの記述については丁寧に指導すると共に、絵や発言からも児童の思いを読み取る。

【評価】  
(1) 砂遊びや砂遊びに使うものを工夫を通して、砂遊び自体の面白さや友達と協力して遊びを創り出す面白さ、自然の不思議さに気付いている。(知識・技能)  
(2) 試行錯誤を繰り返しながら、砂遊び自体を工夫したり、材料や道具を工夫したりしながら、さらに楽しくするために考えを巡らせることができる。(思考・判断・表現)  
(3) 幼児期での経験を基に、思いや願いを明確にして進んで活動したり、もっと楽しくできると信じて試行錯誤を繰り返したりし、達成感や手応えを感じている。(主体的に学習に取り組む態度)

「ぼくは山を作っているところが楽しかったです。砂を触ったらとても気持ちよかったです。」 対象との関わり  
「砂場でお山や町を作ったり、ケーキを作ったりしました。私はケーキを作りました。一番上に団子を乗せました。」 遊びへの没頭 遊びの工夫  
「わたしは〇〇さんとお山を作りました。わたしと〇〇さんのお山ができたときに後ろを見たら町ができていたと思いました。またやりたいです。達成感・意欲  
「わたしは砂場でお山を作りました。水をたくさん持ってきて、お山を固めました。次に4人で穴を開けたらつながったので嬉しかったです。」 遊びの工夫 友達との関わり・協力  
「ぼくは金曜日に砂遊びをしました。楽しかったです。また遊びたいです。みんなとても頑張っていました。みんなすごいね。」 自分・友達の頑張りにへの気付き  
振り返りでは、写真を見ながら感想を述べ合った。写真を見ることで、その時の様子や気持ちがい出しされると共に、自分の姿を客観的に捉えることができると考えた。ここでは、砂や水など対象への気付きにとどまらず、友達と協働したことや自分自身が頑張ったり工夫したりしたことへの気付きや、次への意欲が生まれた。

感想交流の工夫  
(画像を準備し、遊んだ時の様子や気持ちがい出しできるようにする)

評価の工夫  
(活動の中で適宜、評価を行う)

対象への気付き      ものの変化や特性の捉え      成功感・達成感  
自分自身への気付き      仲間意識

交流      共有化  
友達のよさや得意としていることに気付く      認め合う      生かして共に生きる

意欲や自信      振り返る      自身の学びや変容を自覚する      学びを次の活動や生活に生かす      新たな挑戦

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q 園では「砂遊び」を経験しています。幼児期と小学校の「砂遊び」は、何が違うのですか。  
A 小学校では、単元で目指す三つの資質・能力を明確にし、指導を行います。児童と一緒に学習課題を見だし、見通しをもたせながら学習に取り組み、評価を行います。多くの児童が、園で砂遊びの経験をしていることを踏まえ、小1スタートカリキュラム期では、園での経験を共有したり、試しに一度砂場で遊んでみたり、学校探検での気付きを出し合ったりしながら、安心感をもって砂遊びに対する思いや願いをふくらませていくことを大切にしています。  
さらに、小学校では気付きの質を高める工夫を行っています。無自覚だった気付きが自覚されるように、また、気付きが関連付けられ、友達や自分自身への気付きへと高まるように、振り返りの中で意図的に言語活動を仕組みます。  
Q ひらがなを習いたての児童にどのように振り返りをさせますか。  
A 幼児期に文字への興味・関心が高い児童の意欲は大切にしながらも、児童一人一人が自分の気付きを安心して表現できるように工夫します。例えば、本単元では、児童の言葉を教師が文字や絵で板書しながら全員で共有したり、活動場面の画像を見せて振り返ったりしました。また、学習評価では、児童の言動を観察し言葉を掛けたり、ワークシートに描かれた絵の内容を読み取ったりしながら、多面的に評価を行います。

【省察】

本単元は、児童が身近な自然で遊ぶ活動を通して遊びを工夫し、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとすることを目指して設定した。  
幼児期の経験や入学してからの経験を基に、個々の思いや願いから始まった砂場での遊び。最初は、個別の活動だったものが次第に「山作り」や「型作り」等、同じ活動をしている友達との情報交換や協力関係が生まれ始めた。土や砂の感触を楽しみ、「ぎゅっと固めると団子ができたよ」「上から落とすとさらさらだね」と砂遊びの面白さを共有する姿があった。  
2次目になると、自分たちの遊びを「もっと〇〇したい」という思いから、様々な工夫を重ねていった。さらに、グループ間での交流が生まれ、お互いにできたものを壊さないように気を遣ったり、協働・連携し合ったりすることを楽しみ始めた。友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりしながら、砂の特徴を見つけて試行錯誤を重ね、砂遊びを工夫する姿が見られた。  
教師は、個人間やグループ間の気付きを自覚させ、つなぎ、共有させることを意図して、質問や共感、交流の場(作戦タイム)の設定等を行った。さらに、学習課題「遊びを創る」ということに関し、最大限の価値付けを行うことで、さらなる意欲につながった。最後には、1年1組のみんなで作った「砂場の町」が完成し、成功感や達成感を感じることができていた。

【知識・技能】

- ・濡れた砂が崩れにくい」や「川を広げた分、深く掘らなければならない」等、砂の特性に気付いている。
- ・シャベルやじょうろ、バケツ等の道具の特徴を生かしながら遊ぶことができています。

【思考・判断・表現】

- ・自分たちの砂遊びをより楽しくするために、どのような工夫や道具が必要かを考えている。
- ・改善点や準備するものを考えながら活動することができています。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・思いや願いを互いに大切にしながら、協働することや連携することのよさを感じている。
- ・成功感や達成感をもったことを自信につなげ、新たな活動への意欲となっている。

【実践例についてのコメント】

園や家庭から小学校へ入学した子供にとって、小学校はとて大きく広い空間です。生活科で計画されている学校探検は、初めて出会うものやこと、今まで出会ったことのあるものやことの中で、ワクワクドキドキする時間でもあります。  
本単元の【学びがいのある「学習課題」の設定】は、砂場を確認した児童の声を踏まえて幼児期の経験を基に授業が始まっています。砂遊びのよさは、個々が可塑性に富んだ砂との関わりに夢中になり没頭できること、そして個別の活動が『場』を中心に繋がる可能性をもつことです。教師は2次目に見られた児童の工夫、交流、協働・連携を確認し、個々の学びを共有する時間として作戦タイムを設けています。  
個々の学びと次の目標へのつながりをホワイトボードに板書し、砂場の全体図を描いて児童が『砂場の町』を創り出しやすいよう価値付けを行っています。イメージの共有は集団で問題解決をする際の中核になります。さらに振り返りでは、砂場での写真を見ながら、友達と協働したことや工夫したことなどを確認しながら学習したことを自覚できる提示の工夫や、活動を学習したてのひらがな文字と絵で表現し思いを見取るなど、幼児期の学び児童の思いを大切にした小1スタートカリキュラム期の特徴を踏まえた実践と  
【坂田先生より】  
©tutumi

■単元計画(全4時間) 【生活科】

| 次 | 時   | 学習活動   | 指導上の留意点  |
|---|-----|--|--|
| 1 | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 幼児期の経験を共有し、実際に砂場で遊ぶことで、思いや願いを確かにする。(砂遊び①)</li> <li>・前単元を振り返る。</li> <li>・幼児期の経験を共有し、砂遊びをする。</li> <li>・学習課題と学習計画を立てる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前単元「学校探検」の地図や写真などを掲示し、学習内容を想起させる。</li> <li>・砂場遊びができる環境を整え、児童の関心意欲を高めておく。</li> <li>・幼児期の経験を交流する場を設け、個々の思いや願いをもたせる。</li> </ul>   |
| 2 | 2・3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ それぞれの思いや願いをもって遊び、遊びを工夫しようとする。(砂遊び②)</li> <li>・学習課題を確認し、見通しをもつ。</li> </ul> <p>【前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 思いや願いに基づいて遊ぶ。</li> <li>・川を作る ・山を作る</li> <li>・型どり遊びをする</li> <li>▶ 作戦タイムをする。</li> <li>・川をもっと長くしたい</li> <li>・山をもっと高くしたい</li> <li>・お店屋さんになりたい</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動日までに道具を準備するように知らせ、意欲を高める。</li> <li>・友達の作ったものは壊さないように気を付けている児童の様子を見取り、そのよさを全体に広げる。</li> <li>・楽しく遊ぶための約束やルールを確かめる。</li> <li>・【砂遊び(前半)】の活動を振り返らせ、児童の活動や言葉を教師が板書し、共有できるようにする。</li> </ul> |
|   |     | <p>【後半】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 作戦タイムを基に遊びを工夫する。</li> <li>・「バケツだと水がたくさん運べる。重いから二人で運ぼう。」</li> <li>・「ざるを持ってきたら土がたくさん運べる。」</li> <li>・「箱の上にケーキを並べよう(お店屋さん)。」</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場全体を見渡して、変わっていく砂場の様子に気付かせ、今後の見通しをもたせる。</li> </ul>   |
| 3 | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 遊びを振り返り、楽しかったこと、友達と一緒にできたこと、もっとやってみたいことなどを発表し合う。</li> <li>・写真をもとに活動を振り返る。</li> <li>・ワークシートに書いたり、発表したりする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や、活動中の気持ちを想起させるために写真を提示する。</li> <li>・文字だけではなく、絵からも児童の気付きを読み取る。</li> <li>・学習課題に対する価値付けを行う。</li> <li>※新たな課題の発見</li> <li>※協力・協働をしている姿</li> <li>※よりよい遊びへの工夫</li> </ul>                   |

展開案①

展開案②

■展開案①(生活科:砂遊び① 1/4)

1 本時の目標 幼児期の経験を共有し、実際に砂場で遊ぶことで、  
思いや願いを確かにする。

〈指導のポイント〉  
・安心感をもてるようにする工夫  
・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動   | 指導上の留意点   | 備考   |
|--|---|--|
| <p>1 前単元「学校探検」の学習内容を想起させる。</p> <p>・「学校探検」では、どんなものを見つけたか確かめ合う。</p> <p>・幼児期の砂遊びの経験を交流する。</p> <p>※「幼稚園で砂遊びをしたよ。」<br/>※「また砂遊びをしたいな。」<br/>※「山やトンネルを作ったよ。」<br/>※「学校にも砂場があったね。」<br/>※「新しい友達と砂遊びをしたいな。」</p> <p>2 砂遊びをする。</p> | <p>▶「学校探検」に関する掲示をする等、児童の関心・意欲を高めておく。</p> <p>▶個々の思いや願いをもたせる。</p> <p>▶幼児期の遊びや生活の経験を想起させることで、児童が安心感をもてるようにする。また、教師は児童の思いや願いを理解する。</p> <p>▶児童の新たな思いや願いを見取る。</p> | <p>地図・写真</p> <p>「学校探検」の地図や写真などを掲示し、学校の中の様子をいつでも確認できるようにしておくといいですね。</p> <p>集まる場<br/>電子黒板</p> <p>児童一人一人の実態に合わせてながら、(電子)黒板前「集まる場」を設定することで、友達の存在を身近に感じることができます。</p> <p>園訪問等での砂場遊びの写真があれば提示し、思いや願いを共有することもできます。</p> <p>砂場</p> |
| <p>3 砂遊びを振り返り、学習課題と学習計画を立てる。</p> <p>※「大きな山を作りたい。」<br/>※「カップを使ってケーキを作りたい。」<br/>※「川を作りたい。」</p>   | <p>▶児童の思いや願いをもとに、学習課題と学習計画を立てる。</p> <p>▶学習を振り返り、これまでの経験をもとに、新しい友達と楽しく遊べたということを実感できるようにする。</p>   | <p>砂場で安全に遊べるか確認する等、砂場遊びができる環境を整えておきます。</p> <p>次の活動に意欲を持つ姿を「遊びを創り出す」視点で褒めると、クラス全員で遊びを創ろうとする雰囲気生まれます。</p>  |
| <p>【学習課題】<br/>砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!</p>  |   |  |

■展開案②(生活科:砂遊び② 2・3/4)

1 本時の目標 それぞれの思いや願いをもって遊び、遊びを工夫しようとする。

〈指導のポイント〉  
・安心感をもてるようにする工夫  
・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動  | 指導上の留意点   | 備考  |
|---|---|---|
| <p>【前半】(1時間)</p> <p>1 学習課題を確認し見通しをもつ。</p> <div data-bbox="263 566 651 647" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>すなばでみんなとたのしいあそびをつくりだそう!</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時(砂遊び①)を想起する。</li> <li>・本時の見通しをもつ。</li> </ul> <p>2 砂遊び(前半)をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川を作る ・山を作る</li> <li>・型どり遊びをする</li> </ul> <p>3 作戦タイムをする。</p> <p>〈児童の思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川をもっと長くしたい</li> <li>・山をもっと高くしたい</li> <li>・お店屋さんになりたい</li> </ul> | <p>※活動日までに道具を準備するように知らせ、意欲を高めておく。</p> <p>▶前時(砂遊び①)の振り返り(児童の思いや願い)を想起させる。</p> <p>▶児童の新たな思いや願いを見取る。<br/>※個々の遊びからグループ活動へ<br/>※役割分担や協働作業へ</p> <p>▶【砂遊び(前半)】の活動を振り返らせ、児童の活動や言葉を、イメージしやすいように言葉や図で板書し、共有できるようにする。</p> <div data-bbox="699 1160 1066 1216" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作戦タイムで出た意見を書き加えます。</p> </div> | <p>掲示物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動日のカレンダー</li> <li>・砂遊び①の写真</li> </ul> <p>ホワイトボード<br/>集まる場</p> <div data-bbox="1166 1037 1377 1200" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ホワイトボードに書くことで、気付きをみんなで共有することができます。</p> </div> |
| <p>【後半】(1時間)</p> <p>4 砂遊び(後半)をする。</p> <p>〈児童の思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バケツだと水がたくさん運べる。重いから二人で運ぼう」</li> <li>・「ザルをも持ってきたら土がたくさん運べる」</li> <li>・「箱の上にケーキを並べよう(お店屋さん)」</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや気付きを出し合う。</li> </ul>   | <p>▶砂場全体を見渡して、変わっていく砂場の様子に気付かせ、今後の見通しをもたせる。</p> <div data-bbox="730 1417 1129 1597" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アイデアをみんなで出し合い、自分たちで遊びを創る経験をすることで「自分たちで遊びを創り出した。」という学習への意欲が生まれます。</p> </div> <p>▶学習を振り返り、「みんなと楽しい遊びを創り出した。」ということを実感できるようにする。</p>  | <div data-bbox="1166 1641 1377 1895" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>砂遊びを工夫している姿や、対話の中で気付きをもつ姿を褒め、学級全体に紹介すると、次の学びにつながります。</p> </div>   |



### ザルやバケツを使おう

「大きな山ができるよ。」

「バケツでも山が作れるよ。」

### 比べてみよう

「どうやって比べようかな。」

「これ(1メートル定規)使えるんじゃないかな。」



### 川と川をつないで長くしよう 海も作ろう

「みんなでどんな町を作ろうか。」

「山から川が流れてきてるよね。」

「川は海につながってるよね。」

「海も作ろうよ。」



◇ 実践例② (小1スタートカリキュラム期)

7月 国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、音読発表会をしよう」

(「おおきなかぶ」全8時間)

第1次(1時間)

第2次(4時間)

育成を目指す  
資質・能力

1 学習課題や学習計画を話し合って立てる。

2 既習教材「みんなのせかい」  
を活用し、グループで『音読の  
ポイント』を話し合う。(1時間)

3 『音読のポイント』を生かして、「おおきなかぶ」の音読の仕  
方をグループで考える。(3時間)

知識及び技能

表現力等

人間性等

学びに向かう力、  
人間性等

文の中における「誰が、どうしたのか」という関係に気付く  
【(1)言葉の特徴や使い方に関する事項力】

場面の様子や登場人物の行動を手掛かりとして、内容の大体を捉える  
【C読むこと 構造と内容の把握(1)イ】

物語の展開を楽しんで読み、音読発表をすることで、言葉を通じて友達や  
周りの人と関わり、思いや考えを伝え合おうとする

【学びがいのある「学習課題」の設定】

- ① お話の楽しさを深く知り、もっと本を好きになる学習をします。(付きたい力)
- ② お家の人や園の先生を呼んで、音読発表会をします。(言語活動)
- ③ お話に出てくる人のしたことや、場面の様子が分かるように読み方を比べながら考えます。(学び方・思考の仕方)



①付きたい力



②言語活動



③学び方・思考の仕方

【これまでの学びを大切に「児童理解」を図る】

- ・声を揃えて読む楽しさに気付いた。
- ・「とんことん」を読んで登場人物に分けて読む楽しさに気付いた。
- ・園では、発表会に向けて、みんなで一つのことに向かって頑張りたいという思いをもった。

【学習課題を解決する過程が見える「学習計画」の設定】

→教師による言葉掛けで、これからの見通しをもつことができる。

|                |                |          |   |   |                   |                    |                   |
|----------------|----------------|----------|---|---|-------------------|--------------------|-------------------|
| 8              | 7              | 6        | 5 | 4 | 3                 | 2                  | 1                 |
| ついたちからをたしかめよう。 | おんどくはびょうかいをする。 | りはあさをする。 |   |   | でのおんどくのしかたをかんがえる。 | みつけたばいんとをいかして、ぐるうぶ | たのしくおんどくするばいんとをみつ |

T「明日、本番で大丈夫？」  
C「その前に練習がいるよ！」  
発表会成功のための必要性に気付く

T「園ではどんなことをしたの？」  
C「チームでしたことがあるよ。」  
T「チームって、グループってことかな？」  
「じゃあ、グループで発表しようか」  
過去の経験の想起

C「緊張するけど頑張りたいな」  
学ぶことへの意欲の向上・好奇心

C「みんなとならできそうだな」  
友達と学ぶことでの安心感

○一人一人に「私の問い」をもたせる。

→音読発表会を成功させるために、頑張りたいことや上手になりたいことを考える。

(例)「お家の人を楽しんでくれるには、どんな読み方をすればいいのかな。」

(「私の問い」とは)自ら課題を見つける力を身に付けるために、学習活動を解決するために、自分なりに頑張りたいことを考えて、「私の問い」として記述します。

教師の援助  
環境構成

学習の流れの見通し 学びの必然性  
解決したくなる課題の設定

児童の気付きを促す教材の提示  
解決に对话が必要な場の設定

○グループでの話し合い



C「人数が増えているよ」  
人数の変化への気付き  
挿絵を手掛かりにした物語の面白さの実感  
C「最後のポーズはみんなで手をつなごう」  
登場人物の気持ちの動作化することによる表現

どのように読めば聞き手に様子や気持ちが伝わるのかについてグループで意見を出し合い、学級全体で『音読のポイント』として設定し、これからの学習に生かすようにします。

話し合いで設定した『音読のポイント』  
① 誰がどうしたのかを確かめる。  
② 場面の様子から、読み方や読む人数を話し合って決める。

○本文を読んでグループで話し合いながら工夫を考える。



C「出てくる人が増えたから、音読する人も増やそうよ」  
獲得した知識の活用  
対話による内容理解の深まり  
C「どうしたら、かぶが抜けないうつて様子が伝わるかな」  
相手意識を持って課題を解決しようとする思い

○グループ同士で見合う。



C「このグループは声がそろっているところがいいね」  
C「〇〇さんたちのグループは、引っ張る動きを付けていたよ」  
T「よいところに気付いたね」  
互いの考えを伝え合うことによる気付き

○見つけた工夫を自分のグループに生かす。



C「自分達のグループでも真似しようよ」  
音読の工夫の選択  
C「前より音読が楽しいな」  
物語の面白さの実感  
自分の成長への喜び

「このグループはこんな工夫をしているところが素晴らしいね。」と各グループのいいところを学級全体に広げられるような声掛けができると、それぞれの工夫を共有できます。

お互いを認め合う時間の設定  
自由に話し合い活動ができる場・時間の設定  
協働的な学びへの称賛

深い学びの過程

自ら問いを見いだす

解決策を考える

物語の面白さの実感

知識を相互に関連付ける

より深い理解

読み方の吟味

対話的な学びの過程

友達と協力することへの期待  
見通しの共有

話し合い  
協働  
友達の良さへの気づき

工夫の共有  
相手の意見の尊重

互いの考えの伝え合い  
友達と学ぶことの楽しさへの気付き

主体的な学びの過程

音読発表会での学びへの期待感

自分なりの課題の設定

興味・関心

動作化

課題を解決しようとする思い

試行錯誤

粘り強い取組み

園での経験からの発表会への期待感

第3次(3時間)

6 リハーサルをすることで自分達の課題や互いのよさに気付く

○互いのグループの発表を見合い、自分達の課題や他のグループのよさに気付く。



C「緊張するけど、このグループだから頑張れそう」

友達と学ぶことへの安心感

C「先生、昼休みも練習してもいい？」

T「え、何で昼休みも練習しようと思うの？」

C「だって、さっき上手くいかなかったもん」「もっと頑張りたい」

自己を振り返り、発表会を成功させようとする成功意欲の高まり

C「明日が早く来ないかな」

今までの学習に対する自信・充足感からくる期待

リハーサルをすることで自分達を振り返って課題を見つけることができると共に、本番への期待が高まります。

7 「1の1音読発表会」を開き、参観者に聞いてもらう

○お客さんの前で「音読発表会」をする。



【参観者の言葉】

・みんなで協力して発表できて、よかったと思いました。とても楽しかったです。  
・お話に合わせて人数が増えていたので、どんなお話がよく分かりました。

C「最初はすらすら読めなかったけど、読めるようになったからよかった」

T「前の自分の音読と比べたんだね」

課題を解決したことへの喜び  
力の高まりに対する満足感

C「練習を頑張ってたかった」

他者から認められた喜び  
学ぶ価値の自覚

他者の評価を児童に直接伝えることで、児童の達成感がより高まり、次の活動への意欲につながります。通信で感想欄を設けたりすることが考えられます。

8 付いた力を確かめる

○教師が自作した問題で、学習評価をする。

→他の物語を使って問題を作成し、内容の大体を読み取ることができると確認する。

読書や安心できる居場所の広がり

(単元のその後)

児童の読書への関心が高まり、絵本を選んで音読をする児童の姿が見られるようになりました。

○音読が楽しめる本の読み聞かせをする。



毎日、学級文庫の本を入れ替えてたくさん本に触れさせる中で、児童が自覚的に読み聞かせを始めました。また、図書館で選んだ本を音読することも楽しんでいました。

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q.年長期の「劇ごっこ」との違いは何ですか。

A.単元で育みたい三つの資質・能力を児童が身に付けていくための言語活動として、音読発表会を設定しています。音読発表会を成功させることは児童の願いではありますが、単元を通して身に付ける力を獲得していくことを丁寧に進めていく必要があります。児童は、音読発表会の成功を喜びますが、それは三つの資質・能力が身に付いていることが前提です。小学校では、単元で育みたい資質・能力に適した言語活動を設定しています。今回は、単元に適した言語活動として音読発表会を設定しました。理由は、4月からの国語科の学習「あいうえおのうた」「あめですよ」「とんこととん」でのリズムカルな言葉や登場人物の会話を楽しみながらの音読の経験、そして園での経験から、音読発表会をすることで児童が安心感をもつことができると考えたからです。

Q.単元で身に付いた力の評価は、ペーパーテストだけで行うのですか。

A.ペーパーテストもありますが、実技テストもあります。三つの資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、発表、グループでの話し合い、作品の作成など、単元末だけでなく、学習過程の中の多様な活動も評価の対象とします。単元末において、育みたい力が身に付いていない場合は、補充の指導を行います。

【省察】

国語科では、言語能力を育成する中心的な役割を担っており、言語活動を通して資質・能力を育成することが特に大切である。本単元では既習内容や園での経験を踏まえ、言語活動として音読発表会を設定していたところ、単元の導入では児童からも「劇みたいにやってみよう！」という声が聞こえてきた。

しかし、人前で発表することに「失敗するかも」「緊張して声が出ないかも」と、苦手意識や恥ずかしいという思いをもっている児童もいた。音読発表会に意欲的な児童達が「一緒に頑張ってみようよ！」と励ますと、不安感をもっていた児童達も「グループでするならできるかも！」と意欲が高まり、グループで音読発表会をすることに決まった。

音読を重ねることで、「誰がどのようにしたのか」を何度も確かめ、場面の様子や登場人物の行動を把握しながら学び進めることができるように『音読のポイント』を設定した。

音読の仕方をグループで考える場面では、他のグループの工夫に気付いて取り入れようとしていた。また、「ここは何人で読む？」「一人増えたから3人にしよう」など、教科書の文章を根拠に話し合いが進められるようになり、「教科書を読んでいると、面白くなってきたね」という声も聞こえてきた。発表会が近づくと、グループで進んで練習に取り組み、自分達の課題や他のグループのよさに気付いて積極的に伝え合う姿が見られた。また、児童の発案で掲示物やお面作りを行うなど、本番を楽しむ気持ちや、お客さんを精一杯迎えようとする相手意識が高まっていた。本番後の参観者からのコメントをもらったことが児童の自信となった。

音読発表会の後に、「お話、楽しいね」「他のお話も読んでみたい」「絵本が好きになったよ」と進んで本を読む姿が見られた。学習を通して、「読む」ということへの関心が高まったことを実感した。

(知識・技能)

・「おおきなかぶ」の「誰がどのようにしたか」について理解している。

(思考・判断・表現)

・場面の様子が分かるように様々な読み方を試している。  
・何人で読めばよいのか話し合っている。

(主体的に学習に取り組む態度)

・友達と協力して物語を読んだり、音読の練習をしたりして、音読発表会を成功させようとしている。

【実践例についてのコメント】

自覚的な学びが始まったばかりの小1スタートカリキュラム期。担任が児童の学習を支えようとする安心であたたかさが込められている単元計画です。その先生の気持ちや願いは『隠れたカリキュラム(hidden curriculum)』となって子供達に伝わります。文部科学省は「隠れたカリキュラム(hidden curriculum)は、「教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営むなかで、児童自らが学びとっていく全ての事柄」を指します。学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものである」としています。

自覚的に学ぶことが始まった子供達の意欲を受け止める一方、苦手意識や心配さをもつ子供達の気持ちを見取り、『私の問い』を立てることによって学習の流れの見通しをもち、学びの必然性に気付き、解決したくなる課題が設定され、一人ではなくグループで学び合うことで子供の見方・考え方を広げる計画になっています。

発表会成功に向けて意欲が高まる中、リハーサルの必要性を感じている姿や発表会後の学習の振り返りから、子供が学ぶ価値に気付いている様子と、『1の1音読発表会』として学級意識を高めようとする児童を支える教師の援助が見られます。



【坂田先生より】

© tutumi

それぞれの頑張りの承認  
感想交流による本番への意欲の向上

意図的な地域・保護者への  
発表機会の確保  
(校区の地域や保護者と共に)

環境構成の設定(学級文庫に音  
読が楽しめる絵本を整備する)

表現力の向上

振り返る

達成感・充実感

学んだ知識を生かして、新しい課題を見出す

相手意識

互いの考えを伝え合う

認め合い

地域の人との対話

向上心

課題解決への喜び

自己有用感の高まり

自発性

自己の学習活動を振り返って次につなげる

■単元計画(全9時間) 【国語科】

| 次                           | 時           | 学習活動   | 指導上の留意点   |
|-----------------------------|-------------|--|---|
| 1                           | 1           | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶学習課題を見出し、学習計画を話し合っ<br/>て立てる。</li> <li>・学習課題や学習計画を確かめる。</li> <li>・一人一人に「私の問い」をもたせる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの絵本に関する経験を想<br/>起させ、安心感をもてるようにする。</li> <li>・頑張りたいことや上手になりたいこ<br/>とを考える</li> </ul>   |
| 2                           | 2           | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶既習教材「みんなのせかい」を活用し、<br/>グループで『音読のポイント』を話し合う。</li> <li>・グループ毎に音読する。</li> <li>・『音読のポイント』を考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子や人物の行動をグルー<br/>プで話し合わせる。</li> <li>・どのように読めば、聞き手に様子や<br/>行動が伝わるのか考えさせる。</li> </ul>  |
|                             | 3<br>・<br>4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶『音読のポイント』を生かして「おおきな<br/>かぶ」の音読の仕方をグループで考える。</li> <li>・本文を読んでグループで話し合いながら<br/>工夫を考える。</li> <li>・グループ同士で発表を見合い、工夫につ<br/>いて話し合うことで、読みを深めていく。</li> </ul> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【音読のポイント】</p> <p>①誰がどうしたのかを確かめる。</p> <p>②場面の様子から、何人で読む<br/>のかを考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの工夫について質問し合う<br/>ことで、内容の大体をつかませる。</li> </ul> |
|                             | 5           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの発表を聞いて見つけた工<br/>夫を、自分のグループに生かす。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのよさに気付かせる。</li> <li>・物語の面白さを味わわせる。</li> </ul>  |
| 3                           | 6           | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶自分達の課題や他のグループのよさに<br/>気付くためにリハーサルをする。</li> <li>・お互いのグループの工夫や真似したいと<br/>ころを見つけて伝え合う。</li> <li>・発表会の成功への意欲を高める。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧にリハーサルを行い、課題を解<br/>決して本番に臨めるようにする。</li> <li>・「もっと練習したい。」という思いを<br/>もつ児童には、その思いを教師が<br/>認め励ますようにする。</li> </ul>   |
|                             | 7           | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶「1の1音読発表会」を開き、参観者に聞<br/>いてもらう。(地域・保護者参観等)</li> <li>・自分に付いた力を確認する。</li> <li>・友達と学ぶよさを実感する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の問い」を振り返らせ、達成感<br/>や充実感を味わわせる。</li> <li>・「参観者からの言葉」を児童に伝<br/>え、次の学びへの意欲を高める。</li> </ul>   |
|                             | 8           | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶付いた力を確かめる。</li> <li>・教師が自作した問題を解くことで、自分<br/>に付いた力を確かめる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容の大体を読み取ること<br/>ができるかを確認する。</li> <li>・内容の大体をつかめていない児童<br/>には、今後の学習の中で力が付く<br/>ように支援する。</li> </ul>   |
| 読書や安<br>心できる<br>居場所の<br>広がり |             | 音読が楽しめる本を図書館で見つけて、互いに音読したり、気に入った本を紹介したりする。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元での学びを生かす姿を称賛す<br/>る。</li> <li>・文章中の言葉を大切にして、音読<br/>で表現しようとする姿を認める。</li> <li>・音読を楽しんで聞く姿を認める。</li> </ul>   |

■展開案①(国語科 1/9)

1 本時の目標 学習課題を見出し、学習計画を立て、「自分の問い」をもつことができる。

〈指導のポイント〉  
・安心感をもてるようにする工夫  
・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動                                | 指導上の留意点   | 備考   |
|-------------------------------------|---|--|
| 1 題名「おおきなかぶ」から、予想することや知っていることを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 児童と話をしながら、黒板にかぶを描いたり、実物(写真)を見せたりすることで、興味・関心をもたせる。</li> </ul>   | <p>絵・電子黒板</p> <p>気付きをみんなで共有することができます。</p>  |
| 2 「おおきなかぶ」を音読する。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 音読をする前に、教師が範読し、大まかな内容をつかませる。</li> <li>・挿絵を見ながら範読を聞く。</li> </ul>  | <p>集まる場</p> <p>電子黒板(挿絵)</p>  |
| 3 単元を通した学習課題を見いだす。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 幼児期の経験を想起させ、安心感をもたせた上で、付けたい力を確認する。</li> </ul>  | <p>教科書を使うときには、黒板に○ページと書くと戸惑いが少なくなります。</p>  |
| 4 学習計画を立てる。                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が色々な読み方をして聞かせ、どんな読み方が場面に合うのか考えさせる。</li> <li>・場面に合わない声の大きさや声の調子の音読を教師が聞かせ、場面に合う読み方について考えさせる。</li> <li>▶ 見通しをもたせることで、安心感をもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>・計画表を教室に掲示することで、学習の進み具合をいつでも確認できるようにする。</li> </ul> | <p>幼児期での絵本に関する経験を想起させることで、安心感をもてるようにします。</p> <p>色々な読み方に気付かせます。</p> <p>学習計画表</p> <p>視覚化すると、いつでも確認することができます。</p> |
| 5 頑張りたいことや、上手になりたいことを考える。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 一人一人に合った「私の問い」を認める。</li> </ul> <p>例)「すらすらよめるようになりたいな」<br/>「お家の人が楽しんでくれるには、どんな読み方をすればいいのかな。」</p>  | <p>自分の思いに合った問いをもつことができたことを褒めると、学級全体で学んでいくことの期待感が高まります。</p>   |

児童一人一人の実態に合わせてながら、黒板の前のスペースに集まって座る場(集まる場)を設定することで、友達の存在を身近に感じることができます。

- ① お話の楽しさを深く知り、もっと本を好きになる学習をします。(付けたい力)
- ② お家の人や園の先生を呼んで、音読発表会をします。(言語活動)
- ③ お話に出てくる人のしたことや、場面の様子が分かるように読み方を比べながら考えます。(学び方・思考の仕方)

■展開案②(国語科 3・4/9)

- 1 本時の目標 「音読のポイント」をもとに、グループで読み方の工夫を見せ合い、場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体をつかむことができる。

〈指導のポイント〉  
 ・安心感をもてるようにする工夫  
 ・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動  | 指導上の留意点  | 備考  |
|---|--|---|
| 1 学習課題と学習計画、「自分の問い」を確認する。   | ▶前時の振り返りをするこで、本時の見通しをもてるようにする。<br>視覚化すると、いつでも確認することができます。  | ・計画表<br>(掲示物)   |
| 2 グループ毎に共通の場面を読み、音読の工夫を考える。<br><br>①本時で音読する場面を確認し、グループで音読したり、個人で読んだりする。<br>②音読の工夫を考え、どのように読むか分かるようにする。<br>③実際にグループで音読して、工夫を確認したり、修正したりする。 | ▶音読の工夫を考えさせる。<br>・①～③の学習を、グループの進度に合わせて進めていく。<br>・どのように読むと聞き手に伝わりやすいか考えさせる。<br>・教科書の本文に線や言葉を書き加えている児童を認め、全体によさを広げる。<br><br>【音読のポイント】<br>①誰がどうしたのかを確かめる。<br>②場面の様子から、何人で読むのか考える。 | ・自分の問い<br>(ノート)<br><br>読み方の工夫を視覚化する方法を考え、今後の学習にも生かすことができるようにします。<br><br>集まる場<br>教室の前や後ろなどのスペースで発表し合います。 |
| 3 グループ同士で音読発表を見合い、感想を伝え合う。  | ▶他のグループの工夫の仕方について質問したり、工夫した意図を予想したりしながら、場面の読みを深められるようにする。<br>・お互いの工夫について質問し合うことで、内容の大体をつかませる。  |   |
| 4 「私の問い」が解決したか、この学習でどんなことが分かったかについて振り返りを行い、次の時間の見通しをもつ。   | ▶本時の振り返りを伝え合わせる。<br>・「私の問い」を振り返っている児童や、「私の問い」が解決し、更新をしようとしている児童を認めることで、「私の問い」をもつことへの意欲を高める。  | 何ができるようになったかを実感できるように、教師が一人一人の学びの状況を捉え、認め、励まします。  |



### 「私の問い」

「頑張りたいことや上手になりたいことは……。」

「みんなで力を合わせて読みたいな。」

### 「1の1音読発表会」に向けて

「〇〇さん達のグループのよいところを見つけたよ。」

「僕達のグループでも、真似してみたらどうかな。」



### 「1の1音読発表会」

「練習、頑張ったよ。」

「最初はすらすら読めなかったけど、読めるようになったよ。」



◇ 実践例③ (小1スタートカリキュラム期)

5月 特別活動「みんなあそびをしよう」 (全3時間+ショート)

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」

|   |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|
| <p>育成を目指す<br/>資質・能力</p> <p>知識及び技能<br/>表現力等<br/>思考力、判断力、<br/>人間性等</p> <p>学びに向かう力、<br/>人間性等</p> <p>学級・学校生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返りし<br/>ながら、自分の考えを持ち、自己実現を図ることができるようになる</p> <p>みんなで学級・学校生活を楽しくするために、集団活動の意義を理解し、話し<br/>合の進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の<br/>方法を身に付けるようにする</p> <p>解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりするこ<br/>とができるようになる</p> | <p><b>つかむ(ショート)</b></p> <p>【学びがいのある「課題」の設定】<br/>今の学級・学校生活に着目して、発達段階に応じた課題を設定する。<br/>〈議題「みんなあそびをしよう」〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「議題カード」による提案を奨励し、議題決定の話し合い活動を行います。</li> <li>「議題カード」に書けない児童もいます。その場合は、給食時間や休み時間のつぶやきから教師が議題を拾い上げたり、議題設定の話し合いで提案する時間を確保したりします。</li> </ul> <p>【課題を解決する過程が見える「児童理解」の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学して1か月が経ち、一緒に学んだり遊んだりする中で、もっと仲良くなりたいという思いをもった。</li> <li>4月の第1回議題「学級目標を決めよう」では、どんな学級にしたいか話し合うことで、みんなの思いを共有した。</li> </ul> <p>児童の思いや願いを引き出す声かけ!</p> <p>C「もっと友達と楽しく遊びたいな」<br/>T「みんなで何かできないかな」<br/>C「この前、学級目標をクラスで決めたように、みんなで考えてみたいな」</p> <p>学校生活への意欲・期待<br/>第1回議題との関連付け</p> <p>【活動計画】<br/>各活動を設計し、問題解決の場を意図的・計画的にデザインし、児童と共有します。</p> <p>ぎだいかあと<br/>がっきゅうで はなしあいたいことを<br/>かいてください<br/>1 やってみたいこと<br/>2 こまっていること<br/>3 せんせいや かかりへのおねがい</p> | <p><b>話し合う (1時間)</b></p> <p>議題「みんなあそびをしよう」</p> <p>「みんなで楽しいことをしたいね」<br/>「みんなが知っている遊びは何かな」<br/>「仲良くなれるような遊びを考えたいね」</p> <p>提案理由の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まずは自分の意見をしっかりと伝えることができる姿を思いっきり褒めます。時には、児童の前に立ちながら児童を励まします。</li> <li>みんなが理解できる提案理由になるように、教師が助言をします。</li> <li>提案理由について、学級目標や学級の実態と関連させて価値付けると、よりよい学級にしたいという意識が高まります。</li> </ul> <p>話し合いの進め方に沿って自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成することのよさを実感させます。</p> | <p><b>実践する(1時間)</b></p> <p>「みんなが楽しい気持ちになるといいな」<br/>「友達が増えるといいな」「協力して遊べるといいな」<br/>「終わった時に、みんながにこにこになっているといいね」 実践への意欲・期待感の高まり</p> <p>「〇〇さんが、最近元気がないような気がする」「何の遊びが好きかな？」<br/>優しさ・思いやり</p> <p>「サッカーだと、ルールを知らない子もいて、みんなが楽しくできないかもしれない」<br/>「幼稚園の時にした、いす取りゲームはとても楽しかったよ」「いいね」<br/>「みんながにこにこになる遊びは何かな」</p> <p>話し合い(思いや願いを伝え合う)<br/>共感性(友達の考えを受け止める)</p> <p>これまでの園での経験や、第1回議題「学級目標を決めよう」のことを想起させながら助言をします。<br/>勝ち負けではなく、みんなで活動する心地よさを価値付けしながら活動を進めます。<br/>様々な園で、様々な体験をもつ児童の考えを聞き合いながら、学級や学校の生活づくりについて考えることを大切にします。新たなアイデアが生まれることが期待できます。</p> | <p>「今からいす取りゲームパーティーを始めます(あそびかかり)」<br/>「やったあ(拍手)」<br/>「〇〇さんも、〇〇さんもどっちも頑張れ!」 協働</p> <p>「早く負けちゃった人は楽しくないかもしれないね」<br/>「もう一回やってみてもいいんじゃないかな」<br/>「早く負けた人も、歌を歌って手拍子したら楽しい気分になるね」 課題の再発見・改善</p> <p>合意形成によって決めたことをみんなで実践することのよさを実感できる活動となるよう、配慮することが大切です。<br/>話し合いで決まったことをすぐに実践することによって、合意形成の意義を体感することができます。</p> <p>勝ち負けではなく、みんなで活動する心地よさを価値付けしながら活動を進めます。</p> <p>「楽しかったね」<br/>「次は違う遊びがしたいね」<br/>「みんながにこにこで、気持ちがいいね」<br/>「最後まで仲良くやれたね」<br/>達成感・充実感を味わう</p> |
|   | <p>教師の援助<br/>環境構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>議題ポストの設置</li> <li>議題カードによる提案の奨励</li> <li>計画委員による話し合い活動の準備、話し合い活動</li> </ul>   | <p>みんなの顔を見ながら話し合うことができる教室環境の設定(例:机をコの字型に並べる)</p> <p>実践活動につなぐ意欲付け</p>   | <p>個や集団への称賛</p> <p>話し合ったことを学級全員で取り組むことの価値付け</p> <p>活動がしやすく、友達を身近に感じることができる教室環境の設定(例:机を教室の後ろに下げ、いすを並べて座る)</p>   |  |



5月 特別活動「みんなあそびをしよう」 (全3時間+ショート)

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」

振り返る(1時間)



自分の頑張り(自己評価)、友達の頑張り(相互評価)を肯定的に評価する場を設けます。

「みんながにこにこになって、嬉しかったよ」「またしたいな」  
「こんなに楽しかったのは、学級みんなで力を合わせてできたからだね」

達成感・自己有用感を味わう

「学級のたから」(学級文化)の蓄積

「ドッジボールやサッカーみたいなボール遊びもしてみたいね」

「係活動でできないかな」

新たな問題に気付く、次の活動への意欲

「学級のたから」の蓄積

- ・よさ(相互評価)の中から、今後の活動や学校生活に生かしていきたいものを考えたり、発表したりする機会を設けます。
- ・児童から出された意見は教室の後方に「学級のたから」として掲示し、蓄積していきます。
- ・一人一人のよさを基に、学校生活を創っていくことの素晴らしさを賞賛します。

- ・自他の肯定的評価活動(個や集団への価値付け)
- ・「学級のたから」※(学級文化)の決定

活動を通して学んだことを学級・学校生活へ広げる

議題「みんなあそびをしよう」がきっかけとなり、係活動で、自主的・自発的な活動が芽生えました。



「ぬりえまつりをするよ」  
「休み時間に楽しいおまつりをしよう」(おえかきがかかり)

考えを広げる  
活動を積み重ねる



「アスレチックで虫を探すよ。やりたい人は僕のところに来てね」(いきものがかり)

考えを広げる  
活動を積み重ねる

議題「みんなあそびをしよう」での学びが学級・学校生活に生かされている場面を見取り褒めることでさらに学びが広がります。

振り返りを積み重ねることで、児童は自分の成長を把握し、自分自身のよさや学級のよさに気付きながら、自己理解を深めることができます。

学級のみんで頑張ったことや協力したことなどを価値付けし、今後の活動への期待感をもたせることができます。

※「学級のたから」とは

- 今後の特別活動や学級・学校生活に生かしていきたいもの  
例) 話し合いで決めたことは必ず守る。
- 例) 一人一人の思いや願いを大切にすること。 など

「学級のたから」(学級文化)の蓄積

知識・技能を学級・学校生活に生かす

話し合い活動

自分・集団のよさに気付く

考えを広げる

達成感

自己有用感

活動を積み重ねる

新たな問題に気付く

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q. 特別活動が大切にしていることとは何ですか。

A. 特別活動を通して、児童は、学級や学校生活にある「課題」を自らの手で解決していきます。特別活動には「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」があり、幼児教育で培った自主性や人間関係などをさらに伸ばすためには特別活動が効果的です。特別活動を通したよりよい生活や人間関係づくりは、学力と相互に関連します。

Q. 学級会は難しいイメージがあります。小1スタートカリキュラム期でも学級会を開くことができるのですか。

A. 園では日頃から、「集まる場」をつくり、児童と一緒に考える時間を設けられています。それが、重要です。園での経験を生かすことで、安心感をもって学級会を開くことができます。小1スタートカリキュラム期では、しばらくは学級担任が学級会のモデルを示し、児童の「やってみたい!」という好奇心とやる気を高めます。

Q. 計画委員(司会グループ)はどのようにして決めるのですか

A. 原則は、輪番制で行います。役割を分担しながら、課題意識をもって楽しく豊かな学級や生活づくりを目指していきます。

Q. 学級会で、みんなの意見がまとまらずに終わることもありますか。

A. 学級のみんで折り合いを付けて集団としての意見をまとめたり、合意形成を図ったりすることが重要です。決め方には「これだけ型(一つだけに決める)」「いくつか型(時間や場所などを考えていくつか決める)」「たくさん型(よい意見を全部取り入れる)」があります。

【省察】

4月に学級活動のオリエンテーションを実施し、①楽しい学級を創る時間であること②問題をみんなで解決する時間であることを示し、第1回学級会を行った。第1回議題は「学級目標を決めよう」とし、1年間過ごしたい学級を思い描く時間にした。みんなで輪になって座ることで、緊張せずに自由に考えを出し合いながら、笑顔の多い話し合いを行った。

次に、児童の思いや願いをもとにした議題として第2回議題「みんなあそびをしよう」を実践した。ここでは机をコの字型に並べて学級会を行った。みんなの顔を見ながら話し合えるようにしたことで、「何か落ち着くよね」「どんな遊びになるか楽しみたいね」という声も聞かれ、安心感をもって学級会に臨んでいた。

学級会の進め方については、第1回「学級目標を決めよう」は担任主導で学級会を進めたが、第2回「みんなあそびをしよう」は計画委員に任せた。学級会ではこれまでの経験を想いしながら、もっとみんなと仲良くなるにはどんな遊びがよいか考え、話し合うことができた。教師の支援が必要な場面もあるが、自分たちで合意形成ができたという実感をもたせるようにしたところ、みんなで活動するよさを感じながら「いす取りゲームパーティー」を楽しむことができた。また、振り返りでは「こんなに楽しかったのは、学級みんなで力を合わせてできたからだね」「またしたいな」と振り返り、友達と協働して取り組むことの大切さを感じている様子であった。

実践後には「係活動で□□をするよ」「〇〇まつりをするよ」など、学級・学校生活に学びを生かす姿が見られるようになった。今後、さらに児童の自主的・実践的な活動を充実させていきたい。

(知識・技能)よりよい生活を築くための知識・技能

- ・学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。
- ・話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聴き方を理解し、活動の方法を身に付けている。

(思考力・判断力・表現力等) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

- ・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合っている。

(主体的に学習に取り組む態度) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

- ・学級生活がよりよくなるために、自分の考えをもち、積極的に意見を述べようとしている。
- ・他者と協働しながら活動し、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

【実践例についてのコメント】

特別活動は、幼児教育で育てられてきた一人一人のよさや可能性を發揮する有効な時間です。学習指導要領第1章総則で、低学年における教育全体において、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続を図る役割が生活科に期待されるとともに、『特に、小学校入学当初において、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと(スタートカリキュラムの編成・実施)』が規定されたことを受け、低学年の各教科等(国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動)の学習指導要領にも同旨が明記されています<sup>P93-11)</sup>。なお、特別活動においては、『関連的な指導』を編成します。

期待をもって小学校へ入学した1年生のスタートカリキュラム期では、入学式や始業式から丁寧に生活科的、学級活動的な学習を通じて本実践のような学級活動につなげていきます。学級開きに始まり、学級の仲間、学校という場、学校や学校のシステムを知ること重ねて、安心感を基盤に自分でやってみたいという意欲的で自覚的な学習が進んでいきます。集団活動での意思決定の過程で、児童は一人一人の自己決定を生かした問題解決のしかたを学びます。

0歳からの学びを重ね、何でもできるという小1スタート期の児童の心もちを生かし、やってみたいことや考えてみたいことを見取ることに加え、5・6月には児童が自ら提案したくなるようなコーナーなどを検討することも主体的な特別活動の学びになるかもしれません。











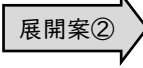


【坂田先生より】



© tutumi

■活動の流れ(全3時間+ショート数回) \*「シ」はショートの時間を表す【特別活動】

議題 『みんなあそびをしよう』

| 過程   | 児童の活動(教師の働きかけ)  | 期待される児童の姿   | 時配                |
|------|---|---|-------------------|
| つかむ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題カードによる提案<br/>(提案の奨励)</li> </ul>   |  <p>学校って楽しいな。みんなで一緒に遊びたいな。</p>  <p>そうだね。話すことが少ない友達とももっと仲良くできたらいいな。</p>                  | シ                 |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題決定の話合い活動<br/>(みんなが理解できる提案理由になるように提案者に助言する。)</li> </ul>  |  <p>どんなことをしたら、友達とお話したり、遊んだりできるのかな。</p>   |                   |
| 話し合う | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画委員会による話合い活動の準備<br/>(司会グループへの助言)</li> <li>・司会グループと学級会の計画を立てる。<br/>(話合いの柱や役割分担について助言する)<br/>(学級会カードに思いや意見を書かせる。)</li> </ul>   |  <p>話合いの進め方を先生に教えてもらおう。</p>  <p>たくさん意見を聞きたいな。</p>                                       | シ                 |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話合い活動<br/>(提案者の思いを反映させる。)<br/>(話合い活動が円滑に進むように司会グループに適宜助言する。)<br/>(児童が自信をもって発言できるように児童の意見を価値付けていく。)</li> </ul>    |  <p>みんなでどんな遊びをしようかな…。幼稚園のころ〇〇遊びをしていたなあ。</p>  <p>みんなで遊ぶのが楽しみになってきたなあ。</p>            |                   |
| 実践する | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践活動(個や集団への称賛)</li> </ul>   |  <p>〇〇したらもっと楽しくなりそうだよ。</p>  <p>いろんな友だちと遊んだり、話したりできてうれしなあ。</p>                       | 準備<br>シ<br>当日<br> |
| 振り返る | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の肯定的評価活動<br/>(個や集団への価値付け)</li> </ul>  <p>(今後の活動への意欲付け)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が頑張ったこと、できるようになったことは何か、実践の前後でよくなったところを振り返る。<br/>(学級みんなで頑張ったことや協力したことなどを価値付けし、次回の実践への期待感をもたせる。)</li> </ul> |  <p>「みんなであそびをしよう」楽しかったな。またやりたいな。</p>  <p>もっともっとみんなと楽しいことをしたいな。ようし、係活動で〇〇をしてみよう!</p> |                   |

■展開案①(特別活動 1/3)

- 1 本時の目標 互いの思いや考えを出し合いながら話し合い、学級全体での意見整理や合意形成した過程を振り返り、実践活動への意欲をもつことができる。

〈指導のポイント〉

- ・安心感をもてるようにする工夫
- ・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ(話し合う過程)

| 学習活動   | 主な発問など   | 指導上の留意点  |
|--|--|--|
| <p>1 本時の議題と提案理由、決まっていること、話し合いのめあてを確認する。</p> <p>はなしあいのめあて<br/>例) みんなの ほうをみて いけんをいおう</p> | <p>・今日は、〇〇さんが提案した議題で話し合います。〇〇さん、提案理由をお願いします。</p> <p>ありがとうございました。今日の議題「みんなあそびをしよう」をすると、学級目標の□□につながりますね。</p> <p>決まっていることは、「・・・」です。自分達のかでこの会ができるように、しっかりと話し合しましょう。</p> <p>・皆さん、この前の話し合いの様子を見て、今日の話し合いのめあてを「……………」とします。この点に気をつけて、がんばりましょう。</p> | <p>▶ 提案理由、学級目標(『〇〇〇』)に照らし合わせ、児童が目指す姿を確認する。</p> <p>▶ 提案理由について、学級目標や学級の実態と関連づけて価値付ける。</p> <p>▶ 決まっていること(会の期日、日程、場所、プログラム等)を伝える。</p> <p>決まっていることが明確でないと、話し合いが拡散してしまいます。</p> <p>▶ 話し合いのめあては、前回の話し合い活動からステップアップしたいことを意識付ける。</p> |
| <p>2 話し合う。</p> <p>柱① 何をして遊ぶか。</p> <p>柱② 準備は何が必要か。</p>                                  | <p>・□□□会議で話し合うことを「柱」といいます。今日の柱はこの2つです。</p> <p>①何をして遊ぶか。</p> <p>②準備は何が必要か。</p>  | <p>▶ 挙手しての発表を促す。</p> <p>▶ 理由を言うように促す。その際、提案理由にふれる児童がいたら、褒める。</p>   |
| <p>(1) 意見を出し合う。</p>  | <p>・柱①について、意見を発表してください。発表ができたなら○(丸)、理由まで言えたら◎(二重丸)です。</p>  | <p>▶ すべての意見に対し、同じ反応をする。</p>  |
| <p>(2) 意見を比べ合う。</p>  | <p>・ここまで出された意見の中から決めます。これらの意見に、賛成や反対の人は意見を言ってください。</p> <p>賛成の意見が出たら赤丸、反対の意見が出たら青丸を書きます。</p>  | <p>意見を出し合う場面よりも発表しやすいので、学級の実態に合わせて意見の出し方を工夫しましょう。</p>  |
| <p>(3) 意見をまとめる(決める)。</p>   | <p>・皆さんの意見を聞いていると、「……………」の意見になりそうです。これに決めていいですか。(柱②も同じように繰り返す)</p>   |  |
| <p>3 話し合い活動を振り返る。</p>  | <p>・今日の話合いでよかったところは、…と…です。皆さんで見つけないところはありませんか。</p> <p>・今日の話合いのめあてを考え、自分がどうだったか振り返りましょう。(ワークシート記入)発表してください。</p> <p>・次の時間は、準備をします。楽しみですね。</p>  | <p>▶ 振り返りを口頭で行う。めあてに沿って、数人を発表させる。</p> <p>▶ 準備・実践活動につなぐ意欲付けをする。</p>   |

■展開案②(特別活動 3/3)

- 1 本時の目標 話し合い活動や実践活動を通して、自分や友達、学級のよさに気づき、これからの学校生活に生かすことができる。

〈指導のポイント〉  
 ・安心感をもてるようにする工夫  
 ・環境構成の工夫 など

2 展開(振り返る過程)

| 学習活動  | 主な発問など   | 指導上の留意点   |
|---|--|---|
| <p>1 実践活動までの学習を思い起こす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動ノートを見て</li> <li>・話し合い活動や実践活動の写真や映像を見て</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさん、議題「みんなあそびをしよう」を、振り返ります。この写真(映像)を見てください。</li> <li>・議題「みんなあそびをしよう」を振り返りましょう。</li> <li>・今日の学習のめあては、「学級のたからをたくさん見つけよう」です。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶学級活動ノートや話し合い活動、実践活動時の写真や映像を利用して、これまでの学習を想起させる。</li> <li>▶写真や映像は、資質・能力を育む視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点を基に選びます。</li> <li>▶児童主体の話し合いとし、めあての確かめを行う。</li> </ul>  |
| <p>2 「つかむ」「話し合う」「実践する」の各過程での振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し合い活動」「実践活動」での自分自身がどうであったか考え、文章(口頭)で自他のよさを表現する。</li> <li>・全体でこれからも次の活動で生かせる「学級のたから」を見つける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさん、議題決め、話し合い、実践の時の「自分の頑張り」「楽しんだ自分」について書きましょう。(自己評価)</li> <li>・次に、話し合いの時、実践や準備の時に頑張っていた友達のことについて付箋紙に書きましょう。(相互評価)</li> <li>・これからも、使いたい「学級のたから」について発表しましょう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶「話し合い活動」「実践活動」での自分自身(個)、友達・学級全体(集団)の活動がどうであったか考えさせる。</li> <li>▶付箋紙に書けない児童がいることも考えられます。その場合には、他者からの肯定的な評価(口頭で話す姿等)を価値付けましょう。</li> <li>▶よさ(相互評価)の中から、今後の活動や学校生活に生かしていきたいものを考えさせ、発表させる。</li> <li>▶出されたものを認め合い、教室の後方に掲示する形で蓄積していく。</li> </ul> |
| <p>3 次の活動への意欲をもつ。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなあそびをしよう」はとっても楽しかったですね。今日の授業で、「学級のたから」がたくさん生まれましたね。これからも「学級のたから」をたくさん見つけていきましょう。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶計画委員からこの議題を通してどう学級が高まったか児童の考える手法で発表させるのもよい。</li> <li>▶一人一人のよさを基に学校生活を創っていくことの素晴らしさを称賛し、今後の活動へとつなげていく。</li> </ul>  |



振り返る

話し合いの時、実践や準備の時に頑張っていた友達の様子を互いに伝える。  
 「いす取りゲーム、最後まで頑張っていたね。」  
 「応援、嬉しかったよ。」

## ◇ 学習評価

### ① 学校評価に関する基本的な考え方

#### 学習評価とは

学習評価は、学校における教育活動に関して、児童一人一人に学習指導要領の内容が確実に定着するように、また教師の指導改善につながるように、児童の学習状況を把握することです。

- 学習状況を分析的にとらえる **観点別学習状況の評価**
- **総括的にとらえる評定**

#### ポイント

- ・ 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すこと
- ・ 個に応じた指導の充実を図ること

### ② 評価に当たっての留意点

- ・ 教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に見取り、児童に伝える
- ・ 児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにする  
⇒ 自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるようにする

### ③ 実際の評価で大切にしたいこと

- ・ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の過程の適切な場面で学習状況の把握を行う
- ・ 他者との比較ではなく、児童一人一人のよい点や可能性などの多様な側面、進歩の状況などを把握し、学年や学期にわたって児童がどれだけ成長したかという視点を大切にする
- ・ 教師による評価とともに、児童による学習評価としての相互評価や自己評価などを工夫する

## 学習評価の種類

#### 目標に準拠した評価

- ・ **観点別学習状況の評価**
- ・ **評定**

- ・ 学習指導要領に示す目標に照らしてその実現の状況を見る。
- ・ 評価基準は各学校が設定。

#### 観点別の学習状況の評価

- ・ 各教科等の目標や内容に照らして、児童の実現状況がどのようなものであるかを、**観点ごとに評価**し、学習状況を分析的に捉えるもの。
- ・ 学力の三要素を踏まえ、観点ごとに評価（「A」「B」「C」の3段階）

#### 個人内評価

- ・ 観点別学習状況の評価や評定には示されない児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。
- ・ 指導要録では、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」及び「特別の教科道徳」の評価において示される。

#### 総括的な評価としての評定

- ・ 観点別の学習状況の評価をもとに、総括的な学習状況を示すため、**5段階（小学校は3段階。小学校低学年は行わない）の評定**を行う。
- ・ 観点別の学習状況だけでなく、**評定についても目標に準拠した評価とする**。
- ・ 各観点別の評価を、評定においてどのように総括するかは、各学校の工夫が求められる。

#### ④ 学習評価の基本構造

学習指導要領の目標及び内容が「資質・能力の三つの柱」で再整理

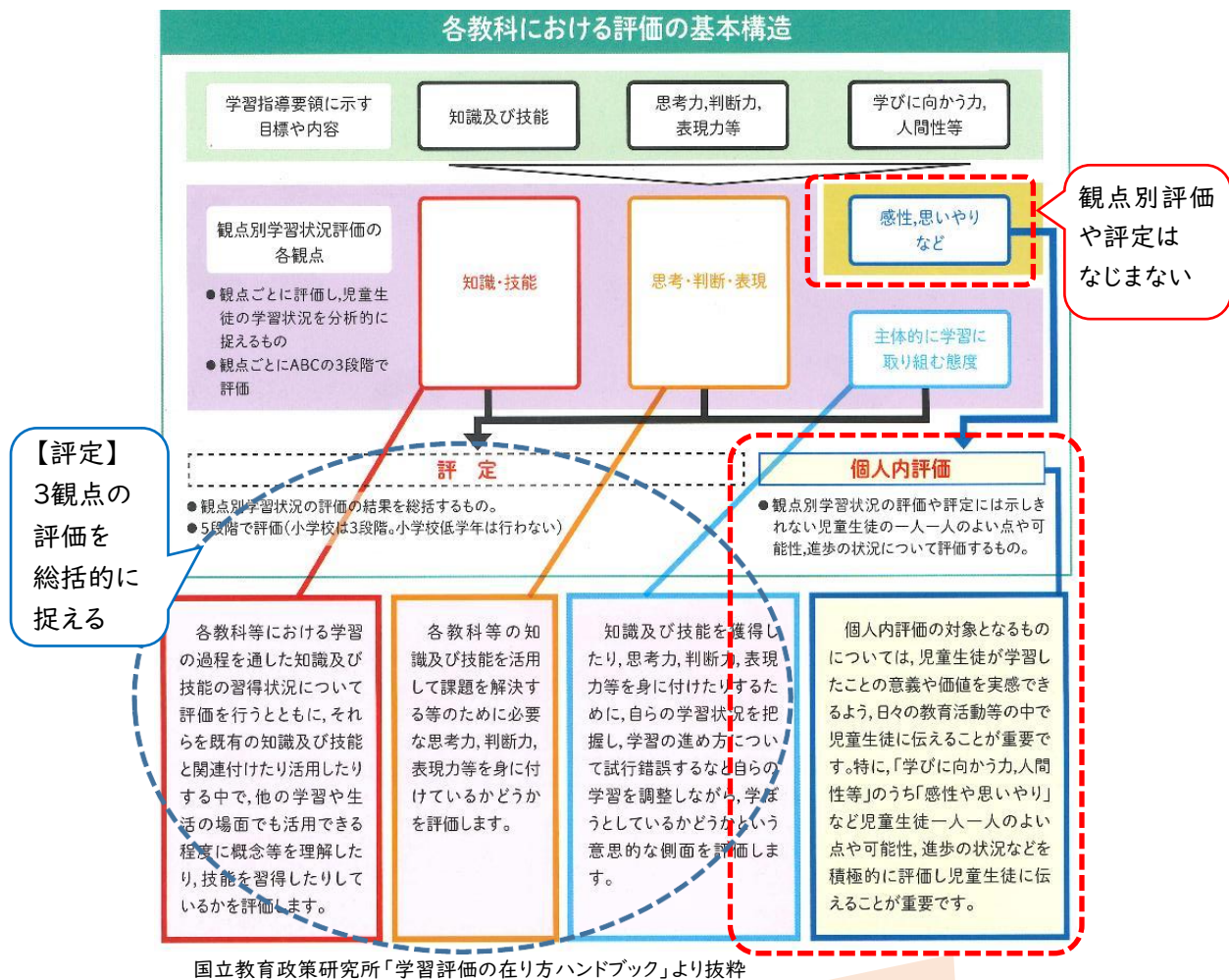
各教科における観点別学習状況の評価を3観点に整理

- ・「知識・技能」
- ・「思考・判断・表現」
- ・「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」を2つの部分から評価する

- ① **観点別評価**・・・「主体的に学習に取り組む態度」として見取ることができる部分
- ② **個人内評価**・・・観点別評価や評価はなじまない部分

#### ⑤ えがおわくわく期で大切にしたい「自分のよさや可能性」を認め、育てる評価



**ポイント** 年長期の経験や、身に付けた力を発揮しながら学びに向かうこと、また小学校で学習した意義や価値を実感できることが重要です。  
⇒ **児童一人一人のよさや可能性を見取り、評価し、積極的に児童に伝えましょう。**

#### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

- ・ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ・ 児童の学習改善につながるものにしていくこと
- ・ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと